

佐賀大学美術館
事業報告及び
自己点検・評価報告書
平成30年度

令和元年12月

佐賀大学
美術館

目 次

I	佐賀大学美術館の現況及び特徴	
1	概 要	p. 1
2	沿 革	p. 2
3	施設概要	p. 3
4	平成30年度の活動	
(1)	主な活動	p. 4
(2)	主催事業展示記録	p. 5
(3)	企画申請事業展示記録	p. 23
(4)	実習・研修	p. 36
(5)	刊 行 物	p. 37
(6)	広 報	p. 38
(7)	見学団体・入館者数	p. 39
(8)	平成30年度新収蔵作品	p. 41
(9)	寄附状況	p. 43
II	自己点検・評価	p. 45
1	平成30年度の主な活動に関する自己点検・評価	
2	今後の課題等	

I 佐賀大学美術館の現況及び特徴

1 概要

平成 25 年 10 月、旧佐賀大学と佐賀医科大学の統合 10 周年記念事業の一つとして開館。美術館と併せて整備された正門エリアは「地域に開かれた大学」という佐賀大学の理念を象徴し、門扉のない低い正門、そして、水平線が強調され、ガラス張りのファサード（正面）をもつ美術館から成る。そして、佐賀大学美術館は、より多くの人に総合大学である佐賀大学の魅力を知っていただくための情報発信の場として建設された。

平成 15 年の国立大学法人法の制定以来、国立大学はそれまで以上にそれぞれの特徴を打ち出し、存在意義を明確にしなければならなくなった。佐賀大学の特色や強みは何かと言われたとき、60 年以上の歴史を誇り、多くの優れた美術・工芸分野の教員、作家、デザイナーなどを輩出してきた美術・工芸教室の実績は地域に確たる歴史を刻んでいる。このような歴史と実績を背景とし、新生佐賀大学の 10 周年を記念する事業の一つとして、佐賀大学美術館建設はスタートした。総合大学であるにもかかわらず、博物館や資料館ではなく、美術館が建てられた理由もそこにある。

一方、佐賀大学は「COC（センター・オブ・コミュニティ）」を大学の理念として掲げている。すなわち、佐賀大学の大学としての大きな存在意義とは、地域貢献にある。佐賀大学は、佐賀大学美術館を通して地域の文化芸術の促進に貢献するとともに、佐賀大学美術館が地域の人々のコミュニケーションの場となる使命を有するのは、そのような理由があるからである。

佐賀大学美術館は、佐賀大学が所有する資料の公開や、特別教科（美術・工芸）教員養成課程以来の美術作品を収集・保管・展示するとともに、美術の新しい活動や表現を地域の人々とともに作り上げていく。また、佐賀大学美術館は、総合大学が生み出すさまざまな研究成果を周知・公開していく。

博物館法に定められた美術館の機能である 1) 調査・研究 2) 資料の収集・保存・公開 3) 教育普及の柱を堅持しつつ、なおかつ佐賀大学美術館は、これらの機能に加えて大学の研究教育機関としての役割、すなわち、全学的な教育研究成果の発表、美術教育研究成果のアーカイブ化などを果たしていく。このような「社会教育の場」であるとともに、「大学の教育研究機関」でもあるという位置付けこそが佐賀大学美術館の特徴であり、学生の教育のために積極的にその場を提供し、また、美術館自体も博物館活動を通じて学生への教育を担う。

(参考)

佐賀大学美術館設置までの主な経緯（役員会での決定等）

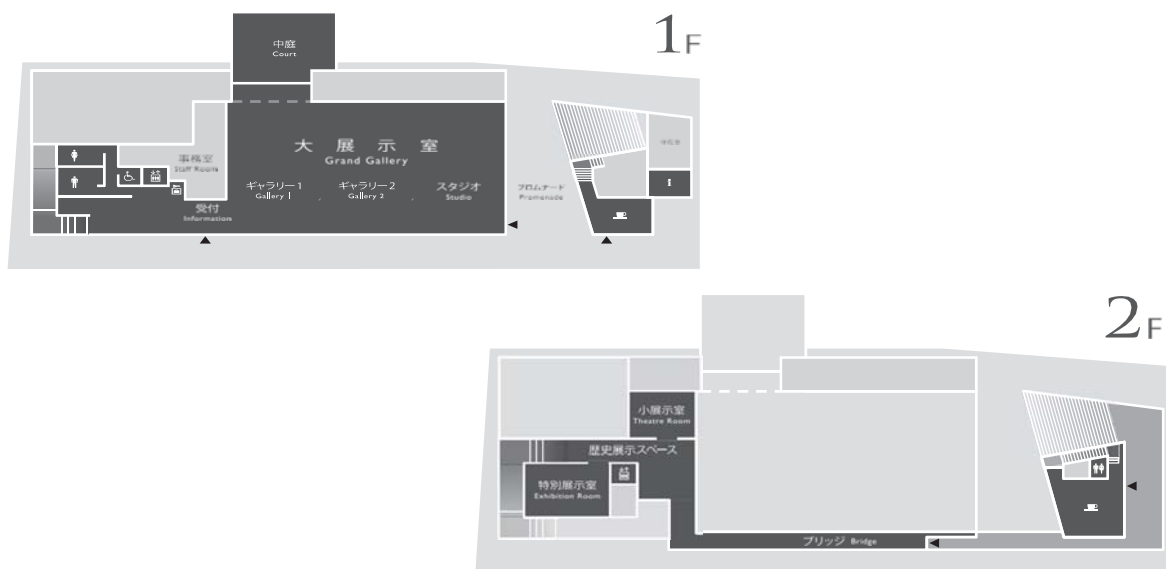
- | | |
|------------------|--|
| 平成 23 年 6 月 8 日 | 美術館設置諮問委員会からの答申を報告し、美術館・正門整備委員会の設置を審議・了承 |
| 平成 24 年 1 月 25 日 | 平成 23 年度補正予算（第 2 次）案で基本設計費の審議・了承 |
| 平成 24 年 2 月 22 日 | 基本設計のイメージ説明、募金趣意書等を審議・了承 |
| 平成 24 年 6 月 20 日 | 平成 24 年度補正予算（第 1 次）案で実施設計費、建設費の審議・了承 |
| 平成 25 年 6 月 26 日 | 佐賀大学美術館規則等の制定 |

2 沿 革

- 平成23年 1月 4日 学長年頭挨拶で美術館設置計画を発表
- 平成23年 6月 8日 役員会にて美術館設置諮問委員会からの答申書を報告
美術館の設置を審議・了承
- 平成23年12月20日 美術館基本設計建設コンサルタント選定委員会
- 平成24年 2月22日 役員会にて基本設計のイメージを説明。募金趣意書を了承
- 平成24年 5月14日 基本設計納入
- 平成24年12月29日 美術館実施設計終了
- 平成25年 2月14日 新営工事起工式
- 平成25年 6月26日 美術館規則，美術館運営委員会規程制定
- 平成25年 8月30日 美術館建設工事竣工
- 平成25年 9月28日 佐賀大学統合10周年記念式典・佐賀大学美術館開館記念式典
- 平成25年10月 2日 一般公開開始
- 平成26年10月24日 入館者5万人達成
- 平成27年 1月22日 第18回佐賀市景観賞表彰式
- 平成28年 2月19日 入館者10万人達成

3 施設概要

人 称	佐賀大学美術館（通称 SUAM）			
所 在 地	佐賀市本庄町1番地			
構 造	鉄骨造・地上2階建			
延床面積	1,502㎡			
展示面積	462㎡			
	ギャラリー1	106㎡	ギャラリー2	106㎡
	スタジオ	111㎡	特別展示室	48㎡
	小展示室	34㎡	歴史展示スペース	57㎡
そ の 他	プロムナード 中庭 ブリッジ			
設 備	トイレ 多目的トイレ ロッカー			
併 設	カフェ			
開館時間	10時00分～17時00分			
休 館 日	毎週月曜日（祝日の場合は翌日，年末年始，夏季休業期間）			



4 平成30年度の活動

(1) 主な活動

平成30年4月13日 佐賀大学美術館開館5周年記念企画〈春季〉

「“特美の芽吹き”－初代教員たちの逸品」(～5.13)

4月15日「新収蔵品展－平成29年度寄贈作品による」(～7.8)

7月1日七夕イベント「星にねがいを☆」(～8.31)

7月13日「幕末の佐賀と学問－明治維新への道」(～8.10)

8月22日「見えた!?三重津海軍所 佐賀藩特注磁器の謎」(～9.17)

9月23日 佐賀大学美術館開館5周年記念企画〈秋季〉

「佐賀大学美術の実り」(～10.7)

10月17日「美工OG展－平成に咲く四輪」(～12.20)

12月2日クリスマスイベント「サンタとカードと幸せと」(～12.25)

平成31年1月4日「佐賀藩10代藩主 鍋島直正展」(～2.9)

(2) 主催事業展示記録

“特美”の芽吹き—初代教員たちの逸品

《展覧会概要》

開館5年目を迎えた記念展の第一弾として、2013年のオープン以来、当館が収集してきた作品の中から、本学で美術を教えた“特美”初代教員10名の作品を紹介した。本学の前身の一つである佐賀師範学校時代から教鞭をとった石本秀雄、久富邦夫、筒井茂雄、緒方敏雄、城秀男。佐賀大学設置後、“特美”設置にあたり集結した豊田勝秋、藤田隆治、瀧一夫、佐口七朗、岸田勉。

教育面から佐賀の美術・工芸を支えることになる“特美”の芽吹きを彩った逸品を逸話とともに紹介した。

《会期》2018年4月13日(金)～5月13日(日)

《開館日数》27日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ

《主催》佐賀大学美術館

《展示構成》佐賀大学教育学部特別教科(美術・工芸)教員養成課程における各教室の初代教員の作品。

油彩画、日本画、塑像、染色、磁器、鍍金、デザイン、書籍資料 合計18点

《入館者数》1,558人

《広報物》チラシ、ポスター、外看板、HP、FB

《配布資料》チラシ、目録

《関連事業》担当学芸員によるギャラリートーク

第1回「佐賀大学の“特美”と教員たち」

日時：4月22日(日)14:00～

第2回「佐賀大学“特美”の成り立ちとそれぞれの初代教員」

日時：5月9日(水)11:00～

アートウォーク

佐賀大学本庄キャンパス内に点在する“特美”ゆかりの屋外彫刻や、附属図書館に展示されている絵画、佐賀大学の前身となった旧制佐賀高校の名残について、担当学芸員が配布資料とともに紹介した。

日時：5月12日(土)10:30～



チラシ



ギャラリートーク

出品リスト

No.	作家名	作品名	制作年	素材	所蔵
1	石本秀雄	トレド	1966	油彩、カンヴァス	佐賀大学美術館
2	石本秀雄	画室にて	1951	油彩、カンヴァス	佐賀大学美術館
3	筒井茂雄	風景	1939	油彩、カンヴァス	佐賀大学美術館
4	久富邦夫	手紙	1941	油彩、カンヴァス	佐賀大学美術館
5	久富邦夫	絵のある部屋	1958	油彩、カンヴァス	佐賀大学美術館
6	緒方敏雄	夏折々	1984	FRP	佐賀大学美術館
7	城 秀男	妖異な円	1974	染色	佐賀大学美術館
8	藤田隆治	五ひき	1961頃	紙本着色	佐賀大学美術館
9	瀧 一夫	萌黄釉角壺	1967	陶器	佐賀大学美術館
10	瀧 一夫	緑釉壺	-	陶器	佐賀大学美術館
11	豊田勝秋	鋳銅瓶（糸目）	1966	鋳金（銅）	佐賀大学美術館
12	佐口七朗	構成 2	1985	シルクスクリーン、ケント紙	佐賀大学美術館
13	佐口七朗	球体による構成	1986	CG、銀塩ラムダ出力	佐賀大学美術館

資料

No.	編集・著者名	資料名	発行年	発行	所蔵
14	岸田 勉	『西部美術』創刊号～第4号	1946-1947	西日本新聞社	佐賀大学美術館
15	岸田 勉	『九州の絵画と陶芸』	1975	平凡社	佐賀大学附属図書館
16	佐口七朗	『デザインの学習 I』	1956	教材社	佐賀大学附属図書館
17	佐口七朗	『うつくしい色彩』	1963	教材社	佐賀大学美術館
18	佐口七朗	『パターンデザイン』	1977	ダヴィッド社	佐賀大学美術館



アートウォーク

新収蔵品展—平成29年度寄贈作品による

《展覧会概要》

2017年度に寄贈を受けた作品を紹介する展覧会。大正から昭和にかけて旧制佐賀中学で教鞭をとり、教養教育にも尽力した田中宗一の水彩画、本学の金属工芸教室元教授で西欧の鑄造法を学び、彫刻界や鑄造界に大きな影響を与えた中牟田佳彰の鑄銅花器、23年間染色教室で創作と教育に携わり、現在も精力的に制作活動が続ける田中嘉生の屏風、3名の作品を紹介した。

《会期》2018年4月15日（日）～7月8日（日）

《開館日数》73日間

《会場》特別展示室

《主催》佐賀大学美術館

《展示構成》水彩画4点、金属工芸5点、書籍1点 合計10点

《入館者数》1,713人

《広報物》チラシ、ポスター、外看板、HP、FB

《配布資料》チラシ、目録

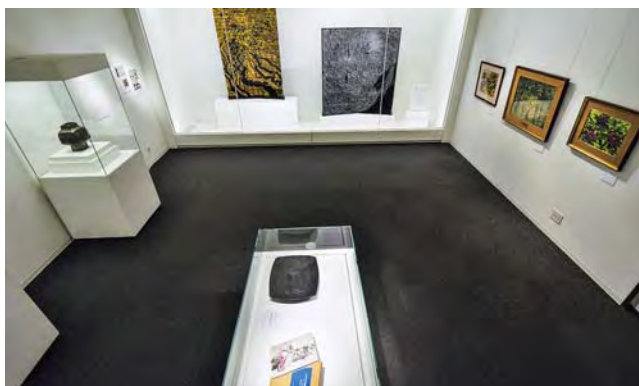
《関連事業》担当学芸員によるギャラリートーク

日時：5月13日（日）15:00～

7月7日（土）15:00～



チラシ



展示風景

出品リスト

No.	作家名	作品名	制作年	素材	寄贈者
1	田中宗一	熊の川溪谷	1964	紙、水彩	酒井洋子 氏
2	田中宗一	清冽（くじゃくさぼてん）	1966	紙、水彩	酒井洋子 氏
3	田中宗一	牡丹	1969	紙、水彩	酒井洋子 氏
4	田中宗一	紅葉	1970	紙、水彩	酒井洋子 氏
5	中牟田佳彰	鋳銅花器	1976	ブロンズ、蠟型	中牟田澄子 氏
6	中牟田佳彰	縄目鋳銅水盤	1985	ブロンズ、蠟型	中牟田澄子 氏
7	中牟田佳彰	鋳銅花器	1988	ブロンズ、蠟型	中牟田澄子 氏
8	田中嘉生	解ける	1982	染色（蠟染）	田中嘉生 氏
9	田中嘉生	卯月の頃 II	2014	染色（蠟染抜染）	田中嘉生 氏

資料

No.	編集・著者名	資料名	発行年	発行	所蔵
10	中牟田佳彰	『イタリア美術鋳物-ブロンズの工程と技法』	1974	東京美術	佐賀大学美術館



ギャラリートーク

幕末の佐賀と学問—明治維新への道

《展覧会概要》

明治維新150年に併せ、幕末・明治期に佐賀とその周辺で活躍した志士たちが残した文物を紹介する展覧会。朱子学を修めた古賀精里や古賀侗庵、佐賀と日本の近代化に努めた副島種臣や大木喬任らの書や詩歌、典籍など、市場直次郎コレクションを中心に、佐賀大学が所蔵する貴重資料を展示した。会期中、関連事業として講演会とワークショップを開催した。

《会期》2018年7月13日（金）～8月10日（金）

《開館日数》26日間

《会場》小展示室、特別展示室

《主催》佐賀大学地域学歴史文化研究センター、佐賀大学美術館

《後援》佐賀県、佐賀市、小城市

《展示構成》I. 幕末維新の動乱と学問

II. 幕末の佐賀藩と学問

III. 幕末小城藩の学問—柴田花守と納富介次郎—

《入館者数》1,528人

《広報物》チラシ、ポスター、外看板、HP、FB

《配布資料》チラシ、目録、図録

《関連事業》講演会「幕末の佐賀と学問」

講師：三ツ松誠（地域学歴史文化研究センター 講師）

「弘道館の学生生活」

吉岡誠也（地域学歴史文化研究センター 研究員）

「幕末佐賀藩の洋学—蘭学寮から致遠館へ—」

日時：7月22日（日）13:30～

会場：教養教育2号館2101講義室

参加：76人

ワークショップ「扇をつくってみよう!—絵つけ体験」

日時：7月29日（日）10:00～

会場：佐賀大学美術館1階

参加：7人



チラシ



展示風景



講演会



ワークショップ

出品リスト

No.	作者名	資料名	年代・時代	形態	
1	斎藤彦磨	狂歌「あめりかの蒸気船を」	1853頃	短冊	市場直次郎コレクション（佐賀大学附属図書館所）
2	近藤芳樹	富士に鶴図	-	扇面	市場直次郎コレクション（佐賀大学附属図書館）
3	鈴木重胤	書「有隣」	江戸後期	扇面	市場直次郎コレクション（佐賀大学附属図書館）
4	六人部是香	和歌「河千鳥」	江戸後期	短冊	市場直次郎コレクション（佐賀大学附属図書館）
5	船曳鉄門	和歌「暮春鶯」	-	短冊	市場直次郎コレクション（佐賀大学附属図書館）
6	会沢安	『新論』	1825	典籍	小城鍋島文庫（佐賀大学附属図書館）
7	藤田東湖	五言律詩（部分）	1852-1855	扇面	市場直次郎コレクション（佐賀大学附属図書館）
8	大橋訥庵	五言律詩	江戸後期	扇面	市場直次郎コレクション（佐賀大学附属図書館）
9	藤本鉄石	柳松山水図	1861	扇面	市場直次郎コレクション（佐賀大学附属図書館）
10	平野国臣	和歌	江戸後期	扇面	市場直次郎コレクション（佐賀大学附属図書館）
11	真木和泉	和歌「待花」	江戸後期	短冊	市場直次郎コレクション（佐賀大学附属図書館）
12	元田永孚	七言絶句「弔抜刀隊戦死諸兵士」	1881-1886頃	書簡	市場直次郎コレクション（佐賀大学附属図書館）
13	三条実美	書「復愛」	-	書	市場直次郎コレクション（佐賀大学附属図書館）
14	古賀精里	七言絶句	江戸後期	書	市場直次郎コレクション（佐賀大学附属図書館）
15	古賀穀堂	『穀堂遺稿抄一』	1844	典籍	小城鍋島文庫（佐賀大学附属図書館）
16	古賀侗庵	書「緑竹助秋声」	江戸後期	軸	市場直次郎コレクション（佐賀大学附属図書館）
17	古賀茶溪	七言絶句「古柏行」（部分）	江戸後期カ	扇面	市場直次郎コレクション（佐賀大学附属図書館）
18	草場佩川	詩「多少箴」	1846頃-1867	軸	市場直次郎コレクション（佐賀大学附属図書館）
19	高島秋帆	七言絶句	江戸後期	扇面	市場直次郎コレクション（佐賀大学附属図書館）
20	伝大庭景德	「レイドタラード」序目	江戸後期	典籍	小城鍋島文庫（佐賀大学附属図書館）
21	大庭景德	『民間格致問答』巻之五	1865	典籍	小城鍋島文庫（佐賀大学附属図書館）
22	相良柳逸	「人工体普録」	1868-1869	典籍	小城鍋島文庫（佐賀大学附属図書館）
23	鶴田信義	『仏国行路記』より パリ万博佐賀藩使節団記念写真	1936	写真（書籍）	佐賀大学地域学歴史文化研究センター
24	副島八十六	『開国五十年史』よりフルベッキ写真	1907	写真（書籍）	佐賀大学附属図書館
25	小車社編	『小車集』	1867	典籍	個人
26	古川松根	和歌「月浮澗水」、「江戸にありける頃 八月ばかりすみだ川なる 百花園の 秋草の花みにまかりて」、「社頭水」	-	短冊	市場直次郎コレクション（佐賀大学附属図書館）
27	古川松根	書簡	日付 8月19日	卷子	佐賀大学地域学歴史文化研究センター
28	古川松根	大黒天図	-	軸	市場直次郎コレクション（佐賀大学附属図書館）
29	大木喬任	七言絶句「出塞行」	-	軸	佐賀大学地域学歴史文化研究センター
30	副島種臣	詩「人之為学」	明治前期	軸	個人
31	岡吉胤	和歌「神歌」	明治前期	軸	個人
32	鍋島直大	和歌	明治期	短冊	市場直次郎コレクション（佐賀大学附属図書館）
33	柴田花守	和歌「詠史」	-	書	市場直次郎コレクション（佐賀大学附属図書館）
34	柴田花守	楠公像	-	軸	市場直次郎コレクション（佐賀大学附属図書館）
35	柴田花守	『画学南北弁』	1882	典籍	佐賀大学地域学歴史文化研究センター
36	岡吉胤	『松浦の家つと』	1898	典籍	市場直次郎コレクション（佐賀大学附属図書館）
37	西川須賀雄	『拜式のわけ』	1875	典籍	佐賀大学地域学歴史文化研究センター
38	-	「柴田介次郎上海談聞書」	1862	冊子	小城鍋島文庫（佐賀大学附属図書館）
39	-	『旧約全書・新約全書』	1855、1857	典籍	小城鍋島文庫（佐賀大学附属図書館）

見えた!? 三重津海軍所 佐賀藩海軍特注磁器の謎

《展覧会概要》

2015年7月より「明治日本の産業革命遺産」として世界遺産に登録された三重津海軍所跡からは、「灘越蝶文」や「海」銘など、特徴的な文様が施された佐賀藩特注磁器食器が出土している。本展ではその特注磁器について、生産地の謎を解き明かすべく佐賀県立九州シンクロトン光研究センターの先端技術を用いて科学的見地から分析した成果を研究者の考察とともに紹介した。

《会期》2018年8月22日(水)～9月17日(月・祝)

《開館日数》24日間

《会場》小展示室、特別展示室

《主催》佐賀大学美術館

《後援》佐賀県、佐賀市、佐賀市教育委員会

《展示構成》謎 其の一 「三重津海軍所とは?-世界文化遺産として登録されたその価値」

謎 其の二 「灘越蝶文とは?-三重津海軍跡から出土した謎多き磁器たち」

謎 其の三 「どこで作られたの?-謎を照らしたシンクロトン」

謎 其の四 「他に同じような焼き物は?-これから解明すべき謎」

《展示資料》三重津海軍所出土資料 磁器136点、鋳造遺物23点

三重津海軍所解説パネル 13枚

三重津海軍所遺構解説パネル 16枚

三重津海軍所解説映像

※出品資料は、佐賀市教育委員会、北海道江差町より借用

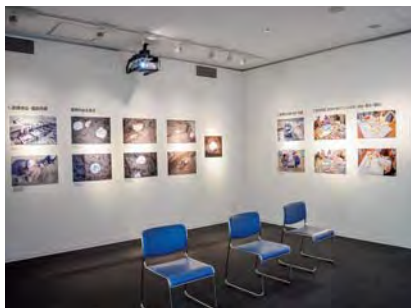
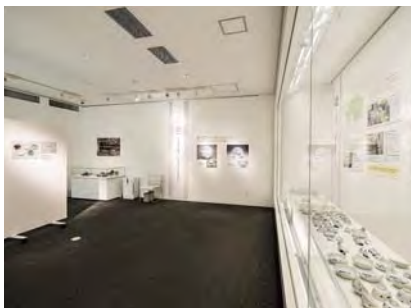
《入館者数》1,248人

《広報物》チラシ、ポスター、外看板、HP、FB

《配布資料》チラシ、ポスター、小冊子



チラシ



展示風景

《関連事業》

講演会

科学的見地から特注時期の分析を行っている田端正明氏と、考古学的見地から肥前陶磁器を研究している徳永貞紹氏を講師にお招きし、それぞれの視点から三重津海軍所出土時期について語って頂いた。

講師：田端 正明 氏（佐賀大学名誉教授）

「出土磁器の生産地はどこか？ 科学的に解明する」

徳永 貞紹 氏（佐賀県立九州陶磁文化館 学芸課長）

「三重津海軍所の海を渡る蝶

—佐賀藩の近代化事業と磁器生産—

日時：8月25日（土）13:30～16:30

会場：佐賀大学 教養教育2号館2101教室

参加：35人



講演会

ギャラリートーク

第1回

講師：徳永 貞紹 氏（佐賀県立九州陶磁文化館 学芸課長）

日時：8月26日（日）13:30～

第2回

講師：中野 充 氏（佐賀市教育委員会 文化振興課主査）

日時：9月9日（日）13:30～



ギャラリートーク

ワークショップ「描いてみよう灘越蝶紋」

灘越蝶文皿を手本に、有田焼の素焼きの小皿に絵付けを行う体験型ワークショップを行った。

講師：田中 右紀 氏（佐賀大学芸術地域デザイン学部 窯芸教室 教授）

日時：9月2日（日）14:00～15:00

会場：佐賀大学美術館 1階スタジオ

参加：10人



ワークショップ

佐賀大学美術の実り

《展覧会概要》

開館5年目を迎えた記念展の第2弾として開催。本展覧会では記念展第1弾「“特美”の芽吹き—初代教員たちの逸品—」で紹介した石本秀雄、久富邦夫ら洋画家たちに加え、所蔵品から人物画と風景画を中心に西洋画、版画、彫刻、17点を展示。併せて過去に主催した展覧会も紹介し、これまでの佐賀大学美術館の歩みを振り返った。

《会期》2018年9月23日（日）～10月7日（日）

《開館日数》12日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ

《主催》佐賀大学美術館

《展示構成》油彩画14点、版画1点、彫刻2点 合計17点

映像 「佐賀大学美術館紹介」、「“特美”の芽吹き—初代教員たちの逸品—」

過去展覧会紹介パネル6枚

《入館者数》841人

《広報物》チラシ、ポスター、外看板、HP、FB

《配布資料》チラシ、目録

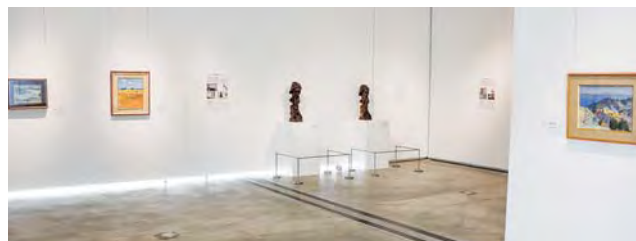
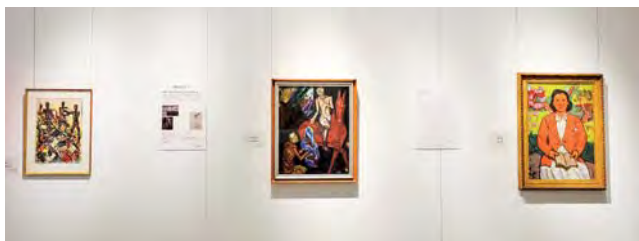
《関連事業》担当学芸員によるギャラリートーク

日時：9月30日（日）14:00～

10月7日（日）14:00～



チラシ



展示風景



ギャラリートーク

出品リスト

No.	作家名	作品名	制作年	素材	所蔵
1	古賀忠雄	男の顔	1947-48	ブロンズ	佐賀大学美術館
2	古賀忠雄	男の顔	-	石膏	佐賀大学美術館
3	深草廣平	入り江の教会(天草、崎津風景)	1980	油彩、カンヴァス	佐賀大学美術館
4	宮地 亨	壱岐	-	油彩、カンヴァスボード	佐賀大学美術館
5	村岡平蔵	西熱海	-	油彩、カンヴァス	佐賀大学美術館
6	斎藤与里	婦人像	-	油彩、カンヴァス	佐賀大学美術館
7	宮地 亨	燈火小閑	1965	油彩、カンヴァス	佐賀大学美術館
8	海老原喜之助	本を焼く人	1956	リトグラフ、紙	佐賀大学美術館
9	村岡平蔵	多摩	1948	油彩、カンヴァス	佐賀大学美術館
10	村岡平蔵	夏の日に	1982	油彩、カンヴァス	佐賀大学美術館
11	石本秀雄	オーバーの女	1960	油彩、カンヴァス	佐賀大学美術館
12	久富邦夫	麦秋	-	油彩、カンヴァス	佐賀大学美術館
13	久富邦夫	祭りの日	1974	油彩、カンヴァス	佐賀大学美術館
14	久富邦夫	呼子(初秋)	1956	油彩、カンヴァスボード	佐賀大学美術館
15	上瀧泰嗣	人間失格	1997	油彩、カンヴァス	佐賀大学美術館寄託
16	海老原喜之助	衣を与う	1956	油彩、カンヴァス	佐賀大学美術館
17	辻 永	須磨初秋	-	油彩、カンヴァス	佐賀大学美術館

美工OG展—平成に咲く四輪

《展覧会概要》

佐賀大学文化教育学部美術・工芸課程の西洋画コースで学んだ4人の作家を取り上げた展覧会。現在活動中の作家、今林明子、牧弘子、仁戸田典子、鶴友那のS30号の作品4点と小品4点を展示した。また、繊細な表現が特徴的な作品を鑑賞するためにオペラグラスの貸出しも行った。

《会期》2018年10月17日（水）～12月20日（木）

《開館日数》56日間

《会場》特別展示室

《主催》佐賀大学美術館

《協力》佐賀大学芸術地域デザイン学部西洋画教室

《展示構成》油彩画7点、水彩画1点 合計8点

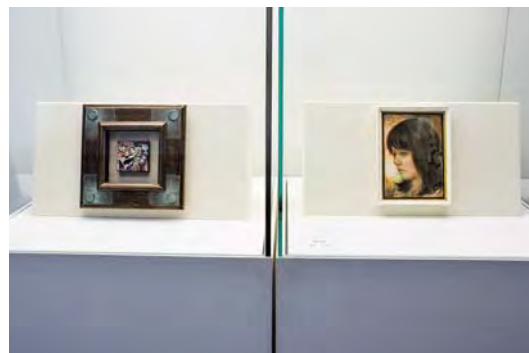
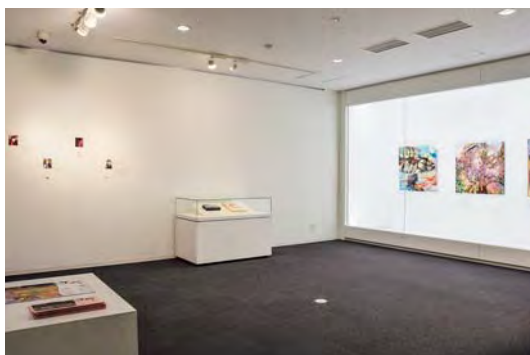
《入館者数》3,366人

《広報物》チラシ、ポスター、外看板、HP、FB

《配布資料》チラシ、目録



チラシ



展示風景

出品リスト

No.	作家名	作品名	制作年	素材	所蔵
1	今林明子	真珠の精製 I	2008	油彩、パネル	個人
2	今林明子	Picture of Picture	2018	油彩、白亜地、箔、綿布、パネル	個人
3	牧 弘子	静寂	2014	水彩、アクリル、インク、ペン、コンテ、色鉛筆、紙	個人
4	牧 弘子	マカリーボン	2018	油彩、アクリル、ペン、ジェッツ、シナベニヤ	個人
5	仁戸田典子	人	2013	油彩、パネル	個人
6	仁戸田典子	遠き日の何処か	2018	油彩、白亜地、綿布、パネル	個人
7	鶴 友那	無題	2012	油彩、カンヴァス	個人
8	鶴 友那	磨かれた石と光	2018	油彩、白亜地、綿布、シナベニヤ	個人

佐賀藩10代藩主 鍋島直正展

《展覧会概要》

2017年3月に佐賀城公園北側に建立された鍋島直正像の銅像建立までの制作過程を、高さ4mを超える銅像原型とともに紹介する展覧会。併せて三重津海軍所や蒸気車など鍋島直正の業績と、側近であった古川松根を中心に同時代に生きた人物も紹介し、直正の人物像を紐解く展覧会をめざした。

《会期》2019年1月4日（金）～2月9日（土）

《開館日数》30日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、小展示室、特別展示室

《主催》佐賀大学美術館

《協賛》佐賀県

《協力》公益財団法人鍋島報効会徴古館、佐賀県立佐賀城本丸歴史館、佐賀大学芸術地域デザイン学部、佐賀大学地域学歴史文化研究センター、佐賀大学附属図書館

《後援》佐賀市、佐賀市教育委員会、サガテレビ

《展示構成》第一章 鍋島直正の時代を振り返る

第二章 銅像制作過程

《入館者数》3,283人

《広報物》チラシ、ポスター、外看板、HP、FB

《配布資料》チラシ、ポスター、小冊子

《関連事業》ギャラリートーク

第1回 講師：徳安 和博 氏（佐賀大学芸術地域デザイン学部教授）

日時：1月5日（土）14:00～

第2回 講師：三ツ松 誠 氏（佐賀大学地域学歴史文化研究センター講師）

日時：1月12日（土）14:00～

第3回 講師：田端 正明 氏（佐賀大学名誉教授）

日時：1月13日（日）14:00～



チラシ



ギャラリートーク

講演会+パネルディスカッション

講師:島 善高 氏

(早稲田大学社会科学総合学院教授)

パネリスト:浦川 和也 氏

(佐賀県立佐賀城本丸歴史館企画学芸課長)

富田 紘次 氏

(公益財団法人鍋島報効会徴古館主任学芸員)

司会:伊藤 昭弘 氏

(佐賀大学地域学歴史文化研究センター 准教授)

日時: 1月27日(日) 13:30~15:50

会場:佐賀大学教育学部1号館2階104番教室

参加:84人



講演会・パネルディスカッション

ワークショップ「粘土と石こうでレリーフを作ろう!」

講師:西村 幸一郎 氏

(佐賀大学芸術地域デザイン学部特任助教)

補佐:和田 奈緒 氏(佐賀大学地域デザイン研究科)

日時: 1月13日(日) 13:00~15:30

会場:佐賀大学芸術地域デザイン学部1号館美術教室

参加:11人



ワークショップ

アートウォーク

講師:小坂 智子 氏

(佐賀大学芸術地域デザイン学部 教授)

日時: 1月26日(土) 13:00~

会場:佐賀大学本庄キャンパス



アートウォーク

蒸気車模型実走実演

協力:小野 文慈 氏

(佐賀大学教育学部 教授)

日時: 1月5日(土) 15:00~

1月12日(土) 15:00~

1月13日(日) 16:30~

1月26日(土) 15:00~

2月3日(日) 11:00~、15:00~

会場:佐賀大学美術館 1階スタジオ



実走実演

出品リスト

No.	作者・編集者名等	資料名	年代・時代	形態	所蔵
第一章 直正の時代を振り返る					
1	古賀一郎書 北島兵一絵 西村謙三解説	鍋島直正公御実歴一百図(パネル展示)	1933	冊子 (画像パネル)	公益財団法人鍋島報効会 徴古館
2	-	詩「次伊達正宗征南詩韻」(複製)	-	軸	佐賀大学地域学歴史文化研究センター
3	小車社編	『小車集』	1867	典籍	個人
4	-	画帖	1844	冊子	佐賀大学地域学歴史文化研究センター
5	古川松根	大黒天図	江戸時代後期～ 明治時代	軸	市場直次郎コレクション (佐賀大学附属図書館)
6	古川松根	西行柳図	江戸時代後期～ 明治時代	軸	市場直次郎コレクション (佐賀大学附属図書館)
7	古川松根	落雁図	江戸時代後期～ 明治時代	軸	市場直次郎コレクション (佐賀大学附属図書館)
8	古川松根	書簡	日付 8月19日	卷子	佐賀大学地域学歴史文化研究センター
9	古川松根	和歌「月浮澗水」	-	短冊	市場直次郎コレクション (佐賀大学附属図書館)
10	古川松根	和歌「江戸にありける頃八月ばかりすみだ 川なる百花園の秋草の花みにまかりて」	-	短冊	市場直次郎コレクション (佐賀大学附属図書館)
11	古川松根	和歌「社頭水」	-	短冊	市場直次郎コレクション (佐賀大学附属図書館)
12	鍋島閑叟公祝賀協賛会編	『閑叟公御銅像除幕式記念誌』	-	冊子	佐賀大学地域学歴史文化研究センター
13	武石弘三郎	閑叟公銅像模型	1914	ブロンズ	公益財団法人鍋島報効会 徴古館
14	徳安和博	鍋島直正公銅像雛形	2015	FRP	佐賀県立佐賀城本丸歴史館
15	-	佐賀名所絵はがき(8枚)	-	葉書	佐賀大学地域学歴史文化研究センター
16	三重津海軍所跡出土	「海」銘椀	-	磁器	佐賀市教育委員会
17	三重津海軍所跡出土	「海」銘小椀	-	磁器	佐賀市教育委員会
18	三重津海軍所跡出土	「海」銘小皿	-	磁器	佐賀市教育委員会
19	三重津海軍所跡出土	「海」銘波文小椀	-	磁器	佐賀市教育委員会
20	三重津海軍所跡出土	「海」銘波文小杯	-	磁器	佐賀市教育委員会
21	三重津海軍所跡出土	「海」銘灘越蝶文小皿	-	磁器	佐賀市教育委員会
22	三重津海軍所跡出土	「海」銘灘越蝶文手塩皿	-	磁器	佐賀市教育委員会
23	三重津海軍所跡出土	「海」銘灘越蝶文手塩皿	-	磁器	佐賀市教育委員会
24	三重津海軍所跡出土	「船」銘小椀	-	磁器	佐賀市教育委員会
25	三重津海軍所跡出土	「船」銘小椀	-	磁器	佐賀市教育委員会
26	三重津海軍所跡出土	「船」銘小皿	-	磁器	佐賀市教育委員会
27	三重津海軍所跡出土	「役」銘梅文小椀	-	磁器	佐賀市教育委員会
28	三重津海軍所跡出土	「役」銘梅文小椀	-	磁器	佐賀市教育委員会
29	三重津海軍所跡出土	「役」銘梅文小杯	-	磁器	佐賀市教育委員会
30	三重津海軍所跡出土	「役」銘灘越蝶文小皿	-	磁器	佐賀市教育委員会
31	三重津海軍所跡出土	「役」銘灘越蝶文手塩皿	-	磁器	佐賀市教育委員会

No.	作者・編集者名等	資料名	年代・時代	形態	所蔵
32	三重津海軍所跡出土	「役」銘灘越蝶文手塩皿	-	磁器	佐賀市教育委員会
33	三重津海軍所跡出土	「役」銘梅文手塩皿	-	磁器	佐賀市教育委員会
34	三重津海軍所跡出土	「御船方」銘椀	-	磁器	佐賀市教育委員会
35	三重津海軍所跡出土	「御船方」銘椀	-	磁器	佐賀市教育委員会
36	三重津海軍所跡出土	「御船方」銘椀	-	磁器	佐賀市教育委員会
37	三重津海軍所跡出土	「御船方」銘椀	-	磁器	佐賀市教育委員会
38	三重津海軍所跡出土	埴塙または小型とりべ（铸造遺物）	-	-	佐賀市教育委員会
39	三重津海軍所跡出土	埴塙（埴塙）	-	-	佐賀市教育委員会
40	三重津海軍所跡出土	羽口（铸造遺物）	-	-	佐賀市教育委員会
41	三重津海軍所跡出土	羽口（铸造遺物）	-	-	佐賀市教育委員会
42	三重津海軍所跡出土	湯口（铸造遺物）	-	真鍮	佐賀市教育委員会
43	三重津海軍所跡出土	鑄型（铸造遺物）	-	-	佐賀市教育委員会
44	三重津海軍所跡出土	銅滓（铸造遺物）	-	-	佐賀市教育委員会
45	三重津海軍所跡出土	銅滓（铸造遺物）	-	-	佐賀市教育委員会
46	三重津海軍所跡出土	銅滓（铸造遺物）	-	-	佐賀市教育委員会
47	三重津海軍所跡出土	蓋状金属製品	-	真鍮	佐賀市教育委員会
48	三重津海軍所跡出土	釘（12本）	-	純銅、真鍮製	佐賀市教育委員会
49	三重津海軍所跡出土	銅板（金属製品）	-	純銅	佐賀市教育委員会
50	開陽丸海底遺跡	船舶用ロープ（船舶用具）	-	布、繊維	北海道 江差町
51	開陽丸海底遺跡	ボルトか（金属製品）	-	銅	北海道 江差町
52	開陽丸海底遺跡	座金付ボルト（金属製品）	-	銅、真鍮	北海道 江差町
53	開陽丸海底遺跡	銅板（金属製品）	-	純銅	北海道 江差町
54	開陽丸海底遺跡	角釘（35本）	-	純銅、真鍮	北海道 江差町
第二章 銅像制作過程					
55	徳安和博	鍋島直正像	2016	FRP	個人
56	徳安和博	鍋島直正頭部雛型	2016	FRP	個人
57	徳安和博	鍋島直正立像	2017	FRP	個人
58	徳安和博	古賀穀堂立像	2017	FRP	個人
59	徳安和博	副島種臣座像	2017	FRP	個人
60	徳安和博	枝吉神陽立像	2017	FRP	個人
61	徳安和博	佐野常民座像	2017	FRP	個人
62	徳安和博	江藤新平立像	2017	FRP	個人
63	徳安和博	大木喬任立像	2017	FRP	個人
64	徳安和博	大隈重信立像	2017	FRP	個人
65	徳安和博	島義勇像	2018	FRP	個人
66	徳安和博	島義勇立像	2018	FRP	個人
67	徳安和博	島義勇像雛型	2018	FRP	個人
68	-	鍋島直正公 3D データ	-	3D データ	公益財団法人鍋島報効会 徴古館
69	-	石膏雌型寄せ型	2018	-	-
70	-	シリコン型 見本	2017	-	-
71	-	石膏型杏葉紋	2016	-	-

その他の

佐賀大学に親しみを持ってもらう企画「来てみんしゃい! 佐賀大学へ」で、美術館にてイベントを行った。季節イベントの七夕とクリスマスの時期にワークショップと美術館のガラス壁面を利用した夜間プロジェクションマッピングを公開した。期間中、短冊やクリスマスカードをつくる来館者が参加できるイベントも併せて行った。

七夕イベント「星に願いを☆」

《活動概要》

七夕に合わせて、「来てみんしゃい! 佐賀大学へ」企画「つくろう☆かざろう 七夕ワークショップ」「来て見て書いて わたしたちの七夕まつり」「夜間プロジェクションマッピング」を開催した。七夕飾りに込められた願いや意味を学び、お飾りや短冊をつくった。子どもから大人まで美術館に親しみを持ってもらう企画をめざした。

《会期》2018年7月1日(日)～8月31日(金)

《事業日数》45日間

《主催》佐賀大学クリエイティブラーニングセンター、佐賀大学美術館

《後援》佐賀大学広報室「来てみんしゃい! 佐賀大学へ」

《活動内容》ワークショップ「つくろう☆かざろう 七夕ワークショップ」

日時：7月1日(日) 13:30～

会場：スタジオ

参加：41人

短冊づくり

「来て見て書いて わたしたちの七夕まつり」

日時：7月7日(土)～7月19日(木)

10:00～17:00

会場：スタジオ

参加：79人

夜間プロジェクションマッピング

日時：7月10日(火)～8月31日(金)

19:30～22:00(44日間)

会場：美術館外壁ガラス面 ※館外からの観覧

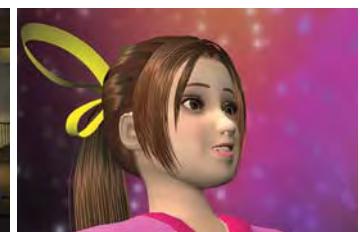
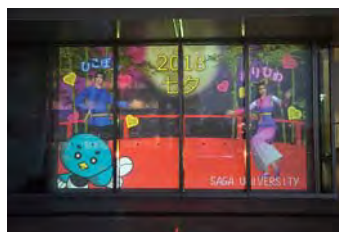
《広報物》チラシ



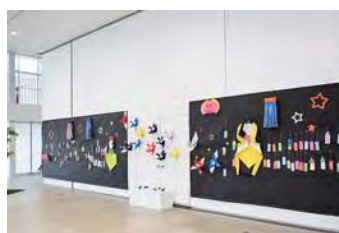
広報画像



ワークショップ



プロジェクションマッピング



展示風景

クリスマスイベント「サンタとカードと幸せと」

《活動概要》

クリスマスに合わせて、「来てみんしゃい！佐賀大学へ」企画「クリスマスカードづくりーサンタとカードと幸せと」「夜間プロジェクション サンタとカードと幸せと」を開催した。クリスマスやグリーティングカードの起源を学んだ後、オリジナルのカードを作った。

《会期》2018年12月2日（日）～25日（火）

《事業日数》21日間

《主催》佐賀大学クリエイティブラーニングセンター、佐賀大学美術館

《後援》佐賀大学広報室「来てみんしゃい！佐賀大学へ」

《活動内容》ワークショップ「クリスマスカードづくりーサンタとカードと幸せと」

日時：12月2日（日）14:00～

会場：歴史展示スペース

参加：12人

夜間プロジェクションマッピング

「サンタとカードと幸せと」

日時：12月13日（木）～

25日（火）18:00～22:00（12日間）

会場：美術館外壁ガラス面

※館外からの観覧

参加：17人

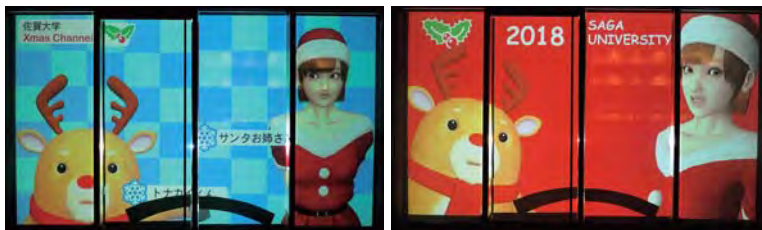
《広報物》チラシ



チラシ



ワークショップ



プロジェクションマッピング



カード

(3) 企画申請事業展示記録

表現と空間と言葉

《展覧会概要》

芸術地域デザイン学部の学生有志による展覧会。企画、運営、制作、展示と全てを学生たちが行った。展覧会では、テーマやコンセプト、ジャンルの異なる5つの作品が展示され、会期中には作者とキュレーターと来館者で作品について話すクロストークが行われた。

《会期》2018年6月21日(木)～6月29日(金)

《日数》8日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ

《主催》表現と空間と言葉実行委員会



発掘された佐賀2018—佐賀県発掘調査成果速報展—

《展覧会概要》

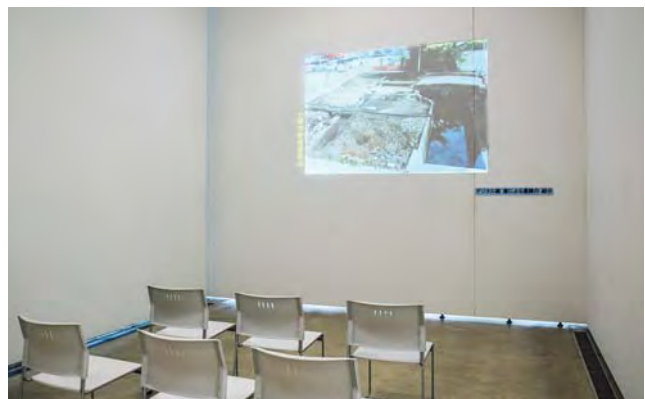
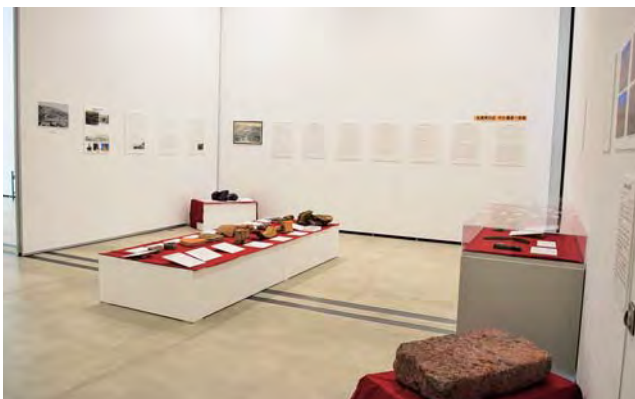
2016年度から2017年度までに佐賀県内で発掘調査された12遺跡の成果発表展。佐賀県教育委員会と佐賀大学の共同で開催した。中近世の城館跡をはじめ、徳川家康の内陣跡、唐津窯跡など多様な考古資料を展示した。会期中、「発掘された佐賀2018—佐賀県発掘調査速報—」の関連調査報告会が開催された。

《会期》2018年7月6日(金)～7月10日(火)

《日数》4日間

《会場》ギャラリー1

《主催》佐賀県教育委員会、佐賀大学(地域学歴史文化研究センター、全学教育機構)



芸術表現基礎・地域デザイン基礎 成果発表展

《展覧会概要》

芸術地域デザイン学部の1年生119名が「芸術表現基礎」と「地域デザイン基礎」の授業で制作した成果作品を発表した。「ミクストメディア」「絵画」「デザイン」「マネジメント」「フィールドワーク」「工芸」6つのテーマを設定し、様々な素材を用いた作品を展示した。オープンキャンパスに合わせ、学生によるギャラリートークも実施した。

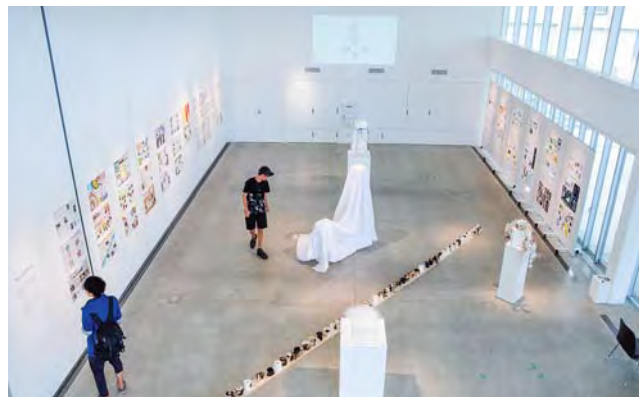


《会期》2018年7月25日(水)～8月10日(金)

《日数》15日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ

《主催》佐賀大学芸術地域デザイン学部



第41回 二紀会佐賀支部展

《展覧会概要》

毎年10月に国立新美術館(東京都)で開催される「二紀展」の佐賀支部による支部展。100号サイズ以上の油彩画や立体作品を展示した。会期中には二紀会佐賀支部による作品批評会や吉岡正人氏による講演会、テンペラと油彩による公開制作が行われた。



《会期》2018年8月22日(水)～8月26日(日)

《日数》5日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ

《主催》二紀会佐賀支部



第3回 S-YOU-GA 展

《展覧会概要》

佐賀大学芸術地域デザイン学部西洋画専攻および崇城大学芸術学部洋画コース（熊本県）の教員、学生、卒業生ら約80名による合同企画展。様々な作風で制作されたS30号の絵画が一堂に会する展覧会となった。



《会期》2018年9月8日（土）～9月17日（月・祝）

《日数》9日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ

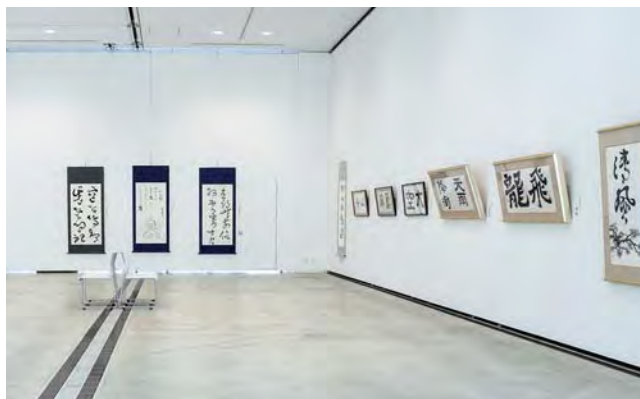
《主催》佐賀大学芸術地域デザイン学部西洋画専攻、崇城大学芸術学部洋画コース



第9回 璞友会展

《展覧会概要》

佐賀県内で書を学んでいる「璞友会」が定期的に行っている成果発表の展覧会。様々な書体で表現された幅の広い作品を展示した。当館で開催されるのは今回で4回目となる。今年度は、指導者を含めた12名による15点の書を発表した。

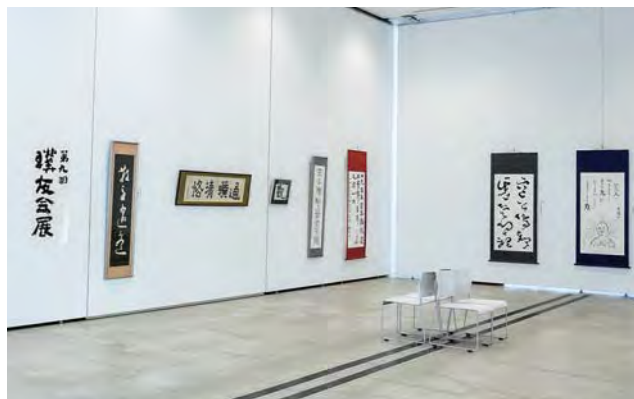


《会期》2018年10月10日（水）～10月14日（日）

《日数》5日間

《会場》ギャラリー1

《主催》璞友会



写真展「わたしの好きなもの」

《展覧会概要》

写真を趣味としている佐賀大学職員 6 人による“わたしの好きなもの”をテーマとした企画展。各々が被写体と向き合い、作品を並べることで、撮影者ごとの個性や写真の可能性を普段カメラに触れることが少ない人に感じてもらうことを趣旨とした。

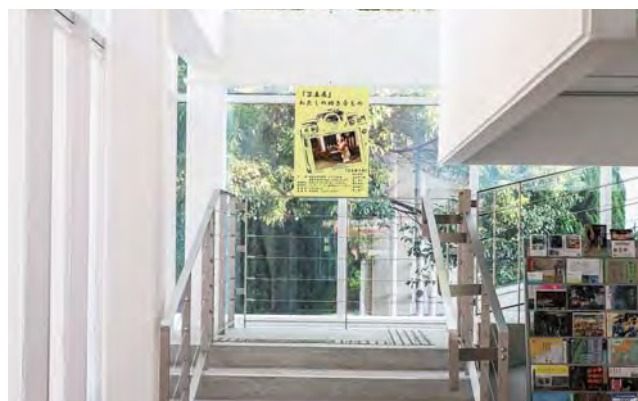


《会期》2018年10月13日（土）～10月21日（日）

《日数》8 日間

《会場》小展示室（歴史展示スペース）

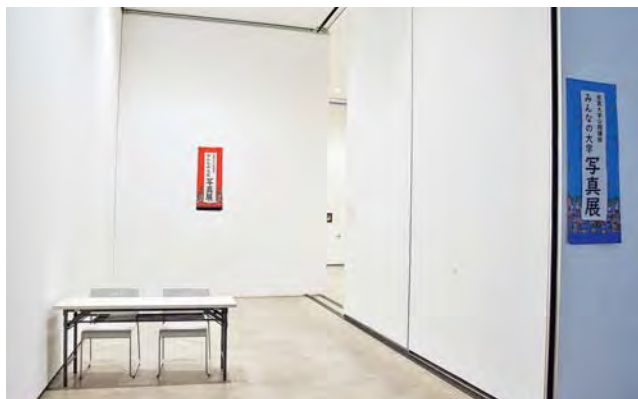
《主催》写真撮り隊



佐賀大学公開講座「みんなの大学 写真展」

《展覧会概要》

佐賀大学経済学部の公開講座「みんなの大学」の受講生50人による写真の展覧会。佐賀県の風景や家族の写真など約135点を展示した。会期中に佐賀大学の大学祭が催され、幅広い年代の来館者が訪れた。

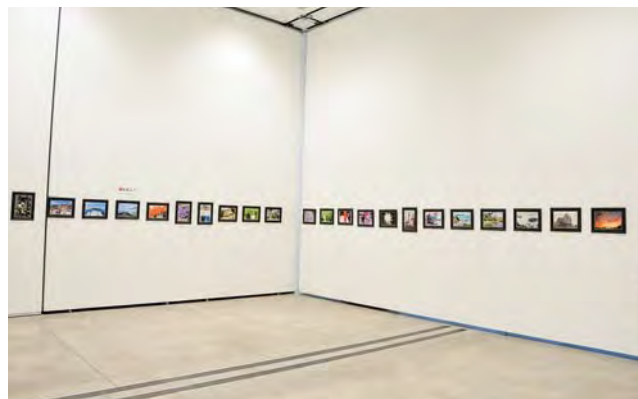


《会期》2018年10月17日（水）～10月21日（日）

《日数》5 日間

《会場》ギャラリー 1、ギャラリー 2

《主催》佐賀大学経済学部



平成30年度 JA 共済小・中学校第54回書道・第44回交通安全ポスターコンクール

《展覧会概要》

JA 共済が文化支援事業として毎年実施している全国規模のコンクールの入賞作品展。

当館では応募された書作品および交通安全ポスターの中から、入選、特選を果たした324点を展示した。

《会期》2018年10月24日（水）～10月31日（水）

《日数》7日間

《会場》ギャラリー 1、ギャラリー 2

《主催》農業協同組合、全国共済農業協同組合連合会

《後援》文部科学省、佐賀県、佐賀県教育委員会、佐賀県警察本部、他



FRONT LINE 2018

《展覧会概要》

芸術地域デザイン学部主催クリエイティブラーニングセンター共催のデジタルアートを紹介する展覧会。

今回は、医と芸の2つの”術（ART）”を2Dや3DのイラストレーションやVR、MRによって、結ぶ試みを目指した。会期中、同会場にて講演会、トークセッションを開催した。

《会期》2018年11月3日（土）～11月8日（木）

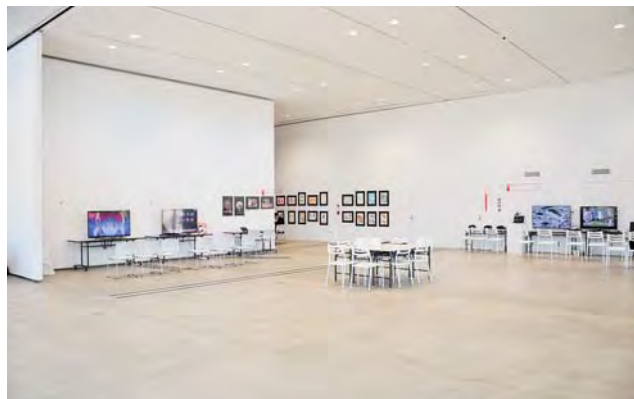
《日数》5日間

《会場》ギャラリー 1、ギャラリー 2、スタジオ、小展示室

《主催》佐賀大学芸術地域デザイン学部

《共催》佐賀大学クリエイティブ・ラーニングセンター

《後援》日本メディカルイラストレーション学会



第60回 総合展—これまでの これからのあゆみ

《展覧会概要》

文化教育学部美術・工芸課程の3年生を中心に運営する、伝統ある学生主体の総合美術展。当館での開催は今回が5回目。学部改変後の芸術地域デザイン学部の学生が主導するものとしては初。



《会期》2018年11月11日(日)～11月18日(日)

《日数》7日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、小展示室、中庭

《主催》第60回総合展実行委員会



毎日書道展第70回記念 毎日現代書巡回展 佐賀展

《展覧会概要》

1948年から続く「毎日現代書巡回展」の70回を記念した書道展。漢字、かな、篆刻、近代詩文書、大字書、刻字、前衛書の7部門で構成されている。今回は253人の作家による317点を展示した。



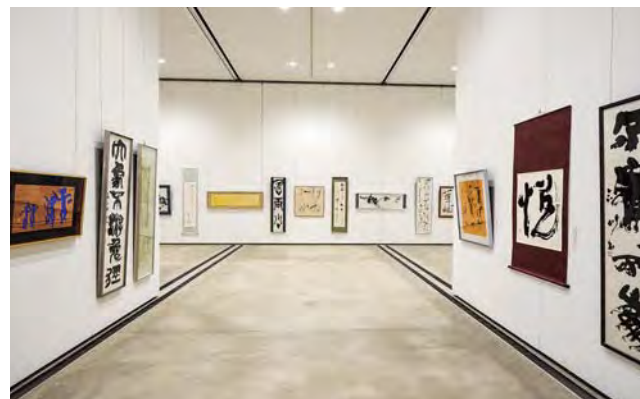
《会期》2018年11月21日(水)～11月25日(日)

《日数》5日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、小展示室

《主催》毎日新聞社、毎日書道会

《後援》佐賀県、佐賀県教育委員会、佐賀市、佐賀市教育委員会、佐賀新聞社、NHK 佐賀放送局、サガテレビ、佐賀県書作家協会、西部毎日書道会



たまゆいの光（夜間展示）さが維新まつり「灯りの空間演出」再演

《展覧会概要》

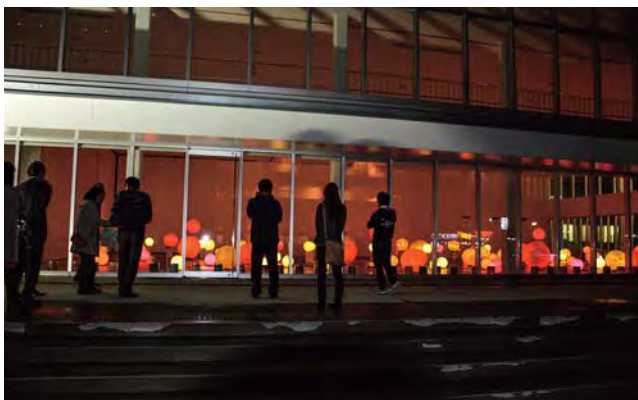
佐賀県主催「さが維新まつり」のフィナーレ演出として、芸術地域デザイン学部 荒木博申教授と学生で手掛けた「灯りの空間演出」を再演する展示。会期中の17時から点灯し22時まで夜間公開した。館外からの観覧であったが多くの人で賑った。

《会期》2018年11月28日（水）～11月30日（金）

《日数》3日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ

《主催》佐賀大学芸術地域デザイン学部



第59回 佐賀県学童美術展

《展覧会概要》

佐賀県内の園児および小・中学生が授業中に制作した絵画、デザイン、線描を645点展示した。小・中学生は学校、各地区の審査、そして本部審査で特選を受賞した作品が展示され、会期中の8日にギャラリートークも開催された。

《会期》2018年12月4日（火）～12月9日（日）

《日数》6日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ

《主催》佐賀県造形教育研究会

《後援》佐賀県教育委員会



第43回 佐賀県高等学校書道教師書作展
 第43回 佐賀県高校臨書展（生徒優秀作品展示）

《展覧会概要》

佐賀県内の高校で書道を担当する教師が授業研究会の他に、年に一度の作品発表の場として開催している展覧会。日頃の研鑽の成果として今年度は34名が44点の書、掛軸、篆刻を展示した。さらに、高校書道部、選択授業の生徒の学習成果の一端として県高等学校生徒臨書展の優秀作品を展示した。



《会期》2018年12月12日（水）～12月16日（日）

《日数》5日間

《会場》ギャラリー 1、ギャラリー 2、スタジオ

《主催》佐賀県高等学校教育研究会書道部門

《共催》佐賀県高等学校文化連盟書道専門部

《後援》佐賀県書道教育連盟



面浮立 ～過去、現在そして未来～

《展覧会概要》

佐賀県鹿島市の伝統芸能である面浮立の歴史をたどり、現在の姿を紹介する展覧会。芸術地域デザイン学部の教員と学生の調査発表や面浮立からインスピレーションを受けた現代アート作品を展示した。会期中、研究発表も行われた。



《会期》2018年12月12日（水）～12月16日（日）

《日数》5日間

《会場》小展示室、歴史展示スペース

《主催》佐賀大学芸術地域デザイン学部（S. A. ホートン）



第34回 佐賀県高等学校美術教師作品展 第8回 生徒授業作品展「これが高校美術だ!」

《展覧会概要》

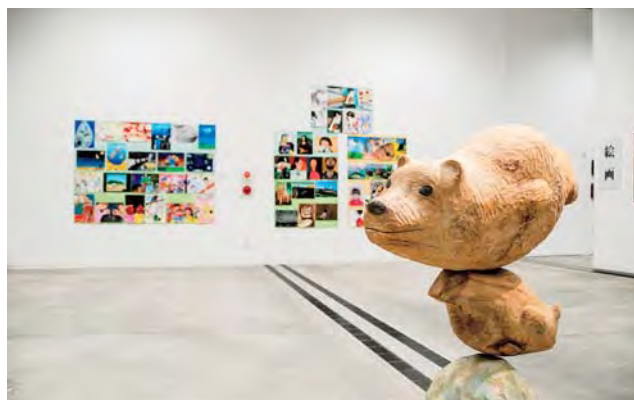
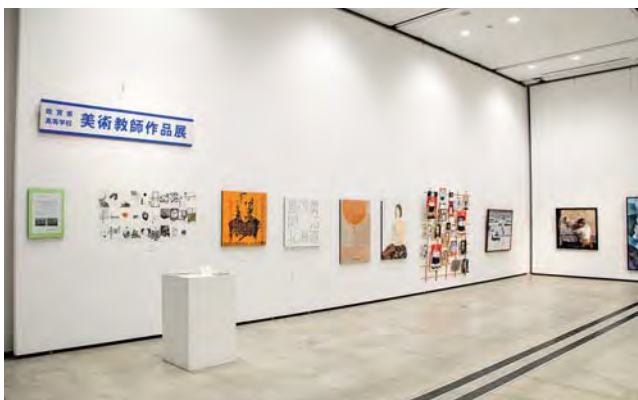
佐賀県内の高校で美術を教える教師25名による油彩やデザイン、染色、立体作品など31点を展示した。さらに、高校で美術を学ぶ意義を一般に伝えるべく、県内10校から高校生の授業作品を出展した作品展「これが高校美術だ!」を併催。多彩な作品を展示した。

《会期》2018年12月19日(水)～12月24日(月・祝)

《日数》6日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ

《主催》佐賀県高等学校教育研究会芸術部会美術部会



佐賀大学教育学部附属特別支援学校 第3回 児童生徒作品展

《展覧会概要》

教育学部附属特別支援学校が、児童生徒の授業作品や学習の様子について展示し、活動を広く周知するとともに、展示・鑑賞を通して児童生徒の情操の学習に取り組むため開催している展覧会。

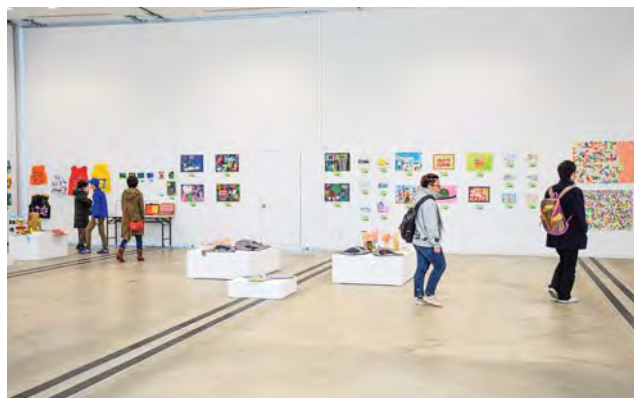
特別支援学校で学ぶ知的障害を持つ児童生徒による図工・美術作品、作業製品、学習活動の中で制作した作品や教材を展示した。

《会期》2019年2月13日(水)～2月17日(日)

《日数》5日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2

《主催》佐賀大学教育学部附属特別支援学校



第63回 佐賀大学文化教育学部美術・工芸課程卒業制作展
 第25回 佐賀大学大学院地域デザイン研究科修了制作展

《展覧会概要》

芸術地域デザイン学部の前身となった文化教育学部美術工芸課程としては最後の卒業制作展。学士および修士総勢31名により作品27点、論文9点が発表された。

《会期》2019年2月20日(水)～3月3日(日)

《日数》11日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、小展示室、中庭 プロムナード 別会場:芸術地域デザイン学部3号館

《主催》文化教育学部美術・工芸教室、佐賀大学大学院地域デザイン研究科



九州コンテンポラリーアート2019 佐賀

《展覧会概要》

九州を中心として活動する現代美術作家の展覧会。平面から立体、インスタレーションなどジャンルにとらわれない作品58点を展示した。この展覧会は、佐賀県立美術館ギャラリーシルクロの別会場が設けられており、当館は3つの会場のうちの1つ。

《会期》2019年3月7日(木)～3月10日(日)

《日数》4日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、中庭

《主催》九州コンテンポラリーアート実行委員会

《共催》公益財団法人朝日新聞文化財団、一般財団法人福岡芸術応援団

《後援》佐賀県、佐賀県教育委員会、佐賀新聞社、サガテレビ、エフエム佐賀、NBCラジオ長崎、KBC九州朝日放送、RKB毎日放送、朝日新聞社、西日本新聞社、毎日新聞社、読売新聞社

《協賛》ギャラリー風、ペリカン調剤薬局、エン建築事務所、チトセヤ画材店、アートスタジオ海の中道、ミナミ画材店、屋根裏猫、ワタナベ画材



第十九回佐賀大学卒業書作展

《展覧会概要》

佐賀大学文化教育学部国語科（書写）最後の卒業生による卒業書作展。2階小展示室にて学生の臨書や指導教員2名の賛助作品、あわせて16点を展示した。



《会期》2019年3月7日（木）～3月10日（日）

《日数》4日間

《会場》小展示室

《主催》佐賀大学文化教育学部学校教育課程教科教育選修国語（書写）教育分野



佐賀大学デジタル表現技術者養成プログラム第九期生修了作品展 电脑芸術展

《展覧会概要》

佐賀大学の「デジタル表現技術者養成プログラム」受講生による修了作品展。2年間の履修期間の締めくくりとして制作された作品から審査で選ばれた、アニメーション、プロジェクションマッピング、プログラミング、映像作品16点を展示した。学生たちの習熟度と様々な表現手法が伝わる展覧会となった。



《会期》2019年3月14日（木）～3月17日（日）

《日数》4日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、小展示室

《主催》佐賀大学クリエイティブラーニング・ラーニングセンター コンテンツ共創ラボ



佐賀大学大学院都市工学専攻 理工学部都市工学科修士制作・卒業制作展

《展覧会概要》

理工学部都市工学科で学んだ学部4年生と大学院2年生の修士制作・卒業制作展。新たな建築デザインや都市デザインを提案する建築模型やプレゼンボードなど様々な作品を紹介した。学生の成果を広く学内外に伝える展示となった。

《会期》2019年3月15日(金)～3月22日(金)

《日数》7日間

《会場》スタジオ

《主催》佐賀大学大学院工学系研究科都市工学専攻、佐賀大学理工学部都市工学科



青木繁原画《海の幸》緞帳公開修復展

《展覧会概要》

青木繁の《海の幸》を再現した緞帳の公開修復を行った。緞帳は縦3.8m、横5.3mの一部。芸術地域デザイン学部 石井美恵准教授が中心となって開催した。期間中は来館者も修復作業に参加でき、鑑賞だけでなく文化財の保存修復について広く伝える展示となった。

《会期》2019年3月24日(日)～3月31日(日)

《日数》7日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2

《主催》佐賀大学芸術地域デザイン学部(石井美恵)



佐賀錦の世界 ～古賀家を通じて～

《展覧会概要》

佐賀県の伝統工芸である佐賀錦を紐解く展覧会。佐賀錦の発展に尽くした古賀家に残された数多くの作品、図案、資料を展示した。会期中は織の実演やギャラリートーク、芸術地域デザイン学部の学生によるワークショップやビデオトークも開催した。



《会期》2019年3月24日（日）～3月31日（日）

《日数》7日間

《会場》スタジオ、小展示室、特別展示室、歴史展示スペース

《主催》佐賀大学芸術地域デザイン学部（石井美恵）



(4) 実 習

概要

2016年より当館での博物館実習の学内生の受け入れが始まった。2018年度は学芸員資格取得希望者1年生32人、2、3年生42人を受け入れ、当該期間に展覧会監視と受付対応実習を館内で行った。また、美術館の収蔵庫見学も開催した。

《実習名》博物館実習 監視、受付実習（前期・後期）

《内容》当館主催事業を教材に、同時間に2人の実習生を受け入れ、実習時間60分の内30分ずつで、監視と受付対応の実習を行った。展示室内の作品、来館者、環境の保全を意識しながら、来館者対応を行い、気付いたことをレポートにまとめた。また、別日に収蔵庫を含む美術館内の見学も行った。

《期間》（前期）2018年6月1日（金）～7月5日（木） ※説明会5月31日（木）16:20～

展覧会「新収蔵品展—平成29年度寄贈作品による」

（後期）2019年1月10日（木）～2月8日（金）

展覧会「佐賀藩10代藩主 鍋島直正展」

（博物館見学）2018年10月26日（金）14:40～15:30、16:20～17:50

《参加者》75名



(5) 刊行物

〔刊行物〕

図録「佐賀藩十代藩主 鍋島直正展」

〔概要〕 図録

〔仕様〕 A4版76ページ 4色刷

〔発行部数〕 1200部

〔発行日〕 2019年1月4日



「佐賀大学美術館 平成29年度年報/紀要」

〔概要〕 年報:館概要/沿革/組織図/平成29年度の活動

紀要:「塑像と素材-佐大の彫刻」展

— 展覧会報告と緒方敏雄、古賀忠雄について

今村 真由美 (佐賀大学美術館 学芸員)

岩永京吉 作品における女性像の一考察

— 佐賀大学美術館所蔵《裸婦》(1963)を中心に

出口 智佳子 (佐賀大学美術館 学芸員)

〔仕様〕 AB版44ページ 4色刷

〔発行部数〕 500部

〔発行日〕 2018年11月30日



(6) 広 報

〔掲載紙・テレビ・ラジオ〕 2018年度は総数で新聞等71件、TV・ラジオ10件が掲載・放送された。
※本頁は館主催事業についての報道のみ抜粋。

- ・展覧会情報「“特美”の芽吹き」（4月27日 佐賀新聞）
- ・展覧会「新収蔵品展」（4月19日・22日 佐賀新聞）
- ・エンジョイ佐賀 佐賀大で新収蔵品展（5月25日 読売新聞）
- ・展覧会情報「幕末の佐賀と学問」（6月29日 佐賀新聞）
- ・「幕末の佐賀と学問」展（7月31日 佐賀新聞）
- ・佐賀大学で企画展「見えた!? 三重津海軍所」世界遺産で出土した磁器の謎に迫る（8月20日 佐賀経済新聞）
- ・ニュース「三重津海軍所出土 特注の磁器展『見えた!? 三重津海軍所佐賀藩海軍特注磁器の謎』」（8月22日 NHK 佐賀）
- ・展覧会「見えた!? 三重津海軍所佐賀藩海軍特注磁器の謎」（8月24日、9月11日 佐賀新聞）
- ・ニュース「佐賀大学美術館 5周年企画展」（9月26日 NHK 佐賀）
- ・佐賀大学美術館開館5周年回顧 逸品ぞろい「実り展」（9月28日 佐賀新聞）
- ・ニュース「佐賀大卒女性4人の作品展」、「島義勇の銅像完成 七賢人、北海道開拓の父 西御門橋南 道知事ら交流誓う」（11月13日 NHK 佐賀）
- ・展覧会「美工 OG 展—平成に咲く四輪の花」（11月14日 佐賀新聞）
- ・鍋島直正の功績紹介 銅像の原型など展示（1月19日 西日本新聞）
- ・鍋島直正像の制作過程紹介 佐賀大美術館で企画展（1月25日 読売新聞）
- ・かちかち Press「佐賀大学美術館から中継」（1月25日 サガテレビ）
- ・鍋島直正の功績紹介 銅像の原型など展示（1月29日 西日本新聞）
- ・見下ろし鑑賞 直正像の原型（2月2日 朝日新聞）

〔掲載誌〕

誌名	発行	発行日
『肥前さが幕末維新博覧会×九州 Walker』 「幕末の佐賀と学問」	KADOKAWA	2018年3月
『佐賀大学広報誌 かちがらす』2018年10月号 「遥かなり十五畷」	佐賀大学広報室	2018年10月
太宰治文学サロン通信 2018December vol. 41 「作家と『ある画家』—久富邦夫との交友をめぐる—」	太宰治文学サロン	2018年12月
『有朋会130年記念誌創造と継承』 久富邦夫《扇》、榑崎重視学生日記	佐賀大学教育学部同窓会	2018年12月20日
ぼたりニュース 第1号2019winter 「佐賀藩10代藩主鍋島直正展」	SMAART	2019年2月1日
『MOTEMOTE さが』2019年3月号 「佐賀大学美術・工芸卒業・修了作品展」	佐賀新聞文化センター	2019年3月1日
『佐賀大学広報誌かちがらす』2019年3月号 「佐賀大学美術・工芸卒業・修了作品展」	佐賀大学広報室	2019年3月
『佐賀大学広報誌かちがらす』2019年3月号 「佐賀藩10代藩主鍋島直正展」	佐賀大学広報室	2019年3月

(7) 見学団体・入館者数

(見学団体一覧)

期日	団体名	人数
4月12日	「芸術創造Ⅱ」受講者	17
4月13日	「芸術創造Ⅱ」受講者	9
4月28日	「大学入門科目Ⅰ」受講者	17
5月2日	「彫刻Ⅰa」受講者	7
6月16日	福岡県立糸島高等学校	47
6月17日	(学)佐賀龍谷学園 龍谷高等学園	55
7月11日	「ヘリテージマネジメント論」受講者	62
7月11日	「応用美術理論」「美術史Ⅰ」受講者	36
7月12日	「日本事情」留学生受講者	25
7月13日	福岡県立舞鶴高等学校	142
7月14日	佐賀県立佐賀農業高等学校	25
7月16日	佐賀大学経済学部「73期同窓会」	126
7月19日	福岡県立福岡高等学校	93
7月22日	佐賀大学工学系研究科 都市工学専攻 環アジア国際セミナー受講者	15
7月26日	鹿児島県立曾於高等学校	15
8月24日	長崎県立大村高等学校 PTA	18
8月27日	日本地衣類研究会	15
9月8日	日本画像学会	14
9月12日	デイサービスケアサポート晴寿	19
9月13日	デイサービスケアサポート晴寿	18
9月14日	デイサービスケアサポート晴寿	18
9月15日	デイサービスケアサポート晴寿	20
9月16日	デイサービスケアサポート晴寿	10
9月18日	デイサービスケアサポート晴寿	13
9月20日	佐賀県立伊万里高等学校	196
9月24日	デイサービスケアサポート晴寿	7
9月29日	佐賀県立武雄青陵中学校	124

※事前連絡および申告にて把握できた団体名称および人数。
※参加者数に引率者を含む。

期日	団体名	人数
10月4日	福岡県立光陵高等学校 PTA	27
10月17日	福岡県立筑前高等学校 PTA	97
10月18日	福岡県立小郡高等学校父母教師会	41
10月20日	循誘公民館講座受講者	22
10月20日	金曜会	10
10月24日	大阪大学日本史研究室	56
10月24日	福岡県立新宮高等学校	40
10月26日	福岡県立武蔵台高等学校	76
11月13日	九州地区国立大学教養教育実施組織会議 及び事務協議会	25
11月14日	佐賀県理容・美容専門学校 (IBビューティーカレッジ)	28
11月21日	佐賀大学同窓会文理学部卒業生	10
11月25日	佐賀大学ホームカミングデイ	50
11月29日	九州国際ビジネス専門学校	17
12月2日	佐賀大学教育学部附属中学校	23
12月2日	佐賀市立城東中学校	48
12月6日	義務教育学校多久市立東原座舎中央校	55
1月6日	放課後等デイサービスきらめき	19
1月10日	元培医事科技大学(台湾)	23
1月18日	「芸術表現A(西洋画)」受講者	18
1月31日	佐賀県立佐賀西高等学校	65
2月2日	佐賀県立佐賀商業高等学校	40
2月2日	佐賀学園高等学校	18
2月10日	長崎国際大学	34
2月20日	佐賀県白石町立六角小学校	21
2月23日	佐賀清和高等学校	38

2018年4月12日～2019年2月23日

(入館者一覧表)

※数値に重複あり

展覧会	入場者数	会期	日数	主催	展示会場
<開館5周年記念企画(春期)> "特美"の芽吹き—初代教員たちの逸品	1,558	4月13日-5月13日	27	佐賀大学美術館	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
新収蔵品展—平成29年度寄贈作品による	1,713	4月15日-7月8日	73	佐賀大学美術館	特別展示室※観覧者実数
表現と空間と言葉	914	6月21日-6月29日	8	表現と空間と言葉実行委員会	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
発掘された佐賀2018—佐賀県発掘調査成果展—	431	7月6日-7月10日	4	佐賀県教育委員会、佐賀大学 (地域学歴史文化研究センター、 全学教育機構)	ギャラリー1
幕末の佐賀と学問	1,528	7月13日-8月10日	26	佐賀大学地域学歴史文化研究 センター、佐賀大学美術館	特別展示室、小展示室
芸術表現基礎 地域デザイン基礎成果発表展	3,736	7月25日-8月10日	16	佐賀大学芸術地域デザイン学部	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
第41回二紀会佐賀支部展	1,139	8月22日-8月26日	5	二紀会佐賀支部	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
見えた!?三重津海軍所 佐賀藩海軍特注磁器の謎	1,248	8月22日-9月17日	24	佐賀大学美術館	特別展示室、小展示室
第3回S-YOU-GA展	1,370	9月8日-9月17日	9	佐賀大学西洋画専攻、崇城大 学芸術学部洋画コース	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
<開館5周年記念企画(秋期)> 佐賀大学美術の実り	841	9月23日-10月7日	12	佐賀大学美術館	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
璞友会展	366	10月10日-10月14日	5	璞友会	ギャラリー1
写真展 わたしの好きなもの	1,062	10月13日-10月21日	8	写真撮り隊	小展示室
美工OG展—平成に咲く四輪	3,366	10月17日-12月20日	56	佐賀大学美術館	特別展示室
佐賀大学公開講座「みんなの大学写真展」	736	10月17日-10月21日	5	佐賀大学経済学部	ギャラリー1、ギャラリー2
平成30年度 JA 共済 小・中学生 第53回 書道・第43回交通安全ポスターコンクール	1,373	10月24日-10月31日	7	農業協同組合、 全国共済農業協同組合連合会 佐賀県本部	ギャラリー1、ギャラリー2
FRONT LINE 2018	675	11月3日-11月8日	5	佐賀大学芸術地域デザイン学部	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、 小展示室
佐賀大学美術・工芸課程 第60回総合展 これまでの これからのあゆみ	1,450	11月11日-11月18日	7	第60回総合展実行委員会	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、 中庭、小展示室
毎日書道展第70回記念毎日現代巡回展 佐賀展	1,104	11月21日-11月25日	5	毎日新聞社、毎日書道会	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、 小展示室
たまゆいの光 さが維新まつり「灯りの空間演出」再演	(夜間展示)	11月28日-11月30日	3	佐賀大学芸術地域デザイン学部	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
第59回 佐賀県学童美術展	3,084	12月4日-12月9日	6	佐賀県造形教育研究会	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
第43回 佐賀県高等学校書道教師書作展	1,192	12月12日-12月16日	5	佐賀県高等学校教育研究会書 道部門	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
「面浮立 ～過去、現在そして未来」	1,192	12月12日-12月16日	5	佐賀大学芸術地域デザイン学部	小展示室、歴史展示スペース
第33回 佐賀県高等学校美術教師作品展	745	12月19日-12月24日	6	佐賀県高等学校教育研究会芸 術部会美術部会	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
佐賀藩10代藩主鍋島直正展	3,283	1月4日-2月9日	30	佐賀大学美術館	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、 小展示室、特別展示室
佐賀大学教育学部附属特別支援学校 第3回 児童生徒作品展	306	2月13日-2月17日	5	佐賀大学教育学部附属特別支 援学校	ギャラリー1、ギャラリー2
第63回佐賀大学文化教育学部美術・工芸課程卒 業制作展・第25回佐賀大学大学院教育学研究科 修了制作展	2,076	2月20日-3月3日	11	佐賀大学文化教育学部、 佐賀大学大学院地域デザイン 研究科	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、 中庭、小展示室、プロムナード
九州コンテンポラリーアート2019佐賀	844	3月7日-3月10日	4	九州コンテンポラリーアート実行 委員会	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、 中庭
第19回 佐賀大学卒業書作展	844	3月7日-3月10日	4	佐賀大学文化教育学部学校課 程教科教育選修国語(書写) 教育分野	小展示室
佐賀大学デジタル表現技術者養成プログラム 第9期生修了制作展「電脳芸術展」	489	3月14日-3月17日	4	佐賀大学クリエイティブ・ラーニ ングセンター	ギャラリー1、ギャラリー2、小展示 室
佐賀大学大学院 都市工学専攻 理工学部都市専攻科 修士制作・卒業制作展	605	3月15日-3月22日	7	佐賀大学大学院工学系研究科 都市工学専攻、 佐賀大学理工学部都市工学科	スタジオ
佐賀錦の世界～古賀家を通じて～	1,247	3月24日-3月31日	7	佐賀大学芸術地域デザイン学部	スタジオ、小展示室、特別展示室、 歴史展示スペース
青木繁原画「海の幸」緞帳 公開修復	1,247	3月24日-3月31日	7	佐賀大学芸術地域デザイン学部	ギャラリー1、ギャラリー2

2018年4月13日～2019年3月31日

[年度別入場者実績]

※数値に重複なし

	総入館者数	うち有料入館者数	開館日数
2013年度	27,167	0	125
2014年度	40,780	2,652	254
2015年度	37,965	0	281
2016年度	38,474	0	291
2017年度	34,718	0	285
2018年度	31,883	0	273

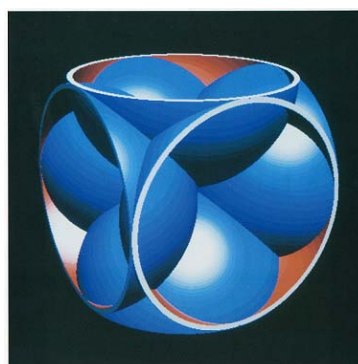
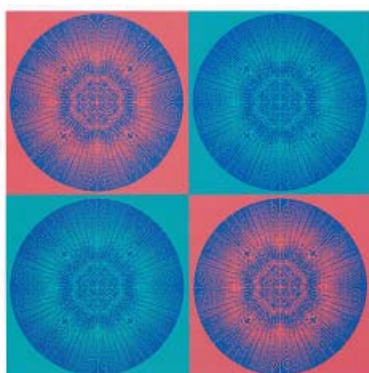
(8) 平成30年度新収蔵作品

2018年度に佐賀大学の所蔵となった物品の内、佐賀大学美術館が保管もしくは管理する作品。

収蔵年	作家名	作家名_E	作品名	作品名_E
2018	石本 秀雄	ISHIMOTO, Hideo	新緑の中央公園	The Central Park of Fresh Green
2018	筒井 茂雄	TSUTSUI, Shigeo	風景	Landscape
2018	佐口 七朗	SAGUCHI, Shichiro	構成 2	Composition 2
2018	佐口 七朗	SAGUCHI, Shichiro	球体による構成—589	Composition of Ball; 589



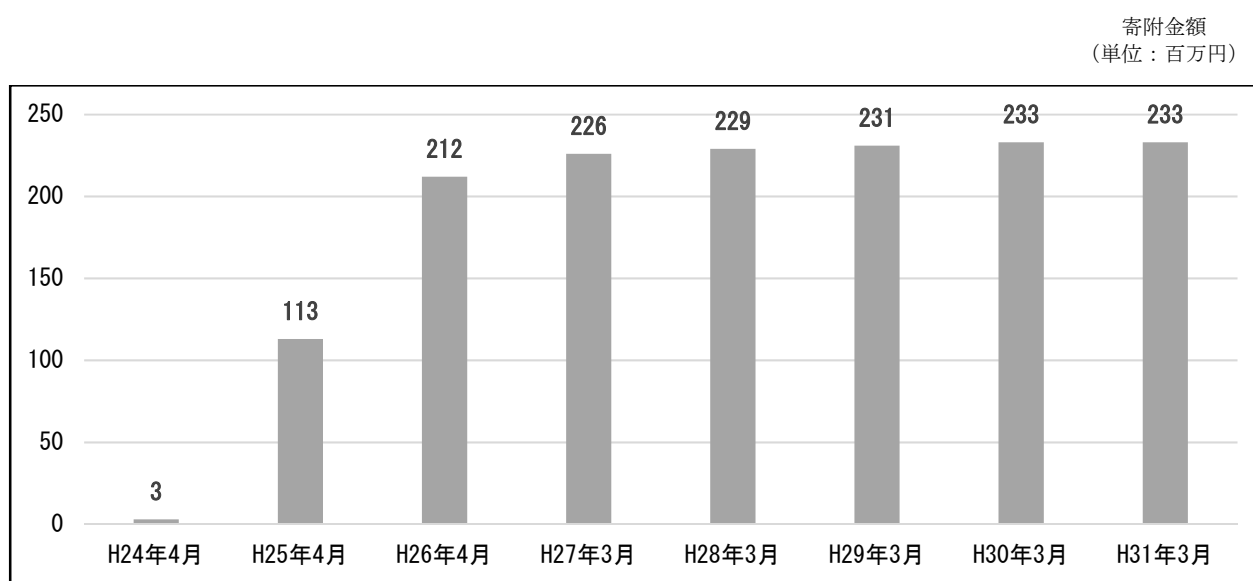
分類	制作年(和暦)	制作年(西暦)	寸法(H×W×D)	素材	出品歴	寄贈者
西洋画	—	—	22.0x 33.3	油彩・カンヴァス	—	竹田 貞子 氏
西洋画	昭和14	1939	73.2x 91.0	油彩・カンヴァス	—	芸術地域デザイン学部より管理替
デザイン	昭和60	1985	50.0x 55.0	シルクスクリーン・ケント紙	—	佐口 正章 氏
デザイン	昭和61	1986	40.0x 40.0	コンピューターグラフィックス・銀塩ラムダ出力	CGアート展	佐口 正章 氏



(9) 寄附状況

[美術館設置募金の経緯]

平成 23 年 6 月	美術館設置募金WG 設置
平成 24 年 4 月	美術館設置事業募金開始
平成 25 年 6 月	寄附者芳名帳を公開
6 月	美術館規則の制定に伴い、美術館設置募金WG を解散
9 月	美術館に高額寄附者銘板を設置
平成 25 年 10 月	美術館開館後も美術館設置事業募金を継続
平成 31 年 3 月	募金総額 233,340,667 円 (平成 31 年 3 月 31 日現在)



Ⅱ 自己点検・評価

平成30年度までの美術館運営の特徴について

当美術館は平成25年度10月に新制佐賀大学(旧佐賀大学と佐賀医科大学統合による)10周年を記念して開館した。国内で初の国立総合大学に附属する美術館であり、様々な展示事業を通じて大学の情報や教育・研究の成果を発信するとともに、地域のコミュニティセンターとして市民の方からも気軽に大学に足を運んでもらうきっかけとなることを目指している。

この目的のために大学内の施設ながら常時一般公開し、また、市民団体にも活動の場を提供しながら年間を通して開館している。オープンから平成30年度末までの5年半に128本の事業が行われ、約21万1千人の入館者があった。来館者の層は学生や教職員など大学関係者にとどまらず、市民の一般観覧、近隣小中高校からの団体見学など幅広い。所在地の人口に対する入館者の割合で見ると他の大学博物館・美術館では高いところでも3%台(平成27年度本学アンケート調査)だが、当館は前年度より下がったものの約15%と利用率が非常に高くなっている。この数値は「開かれた大学」を象徴する施設としての存在意義を示すと同時に、芸術活動が日常にとけ込んでいる佐賀の文化風土に由来する当館の大きな特長である。

このような市民を含めた利用率の高さや、「特美」に由来する美術・工芸教育の伝統と質、芸術と他領域を結びつける総合大学ならではの学際的な試み、佐賀の文化・芸術の紹介等を、卒業生を含む周囲の関係者との緊密な協力関係のもとに実施できることは当館の強みとなっている。

以下、開館5年目を迎えた平成30年度の主な活動について報告し、項を改めて今後の課題について検討したい。

1. 平成30年度の活動の概略

平成30年度は、佐賀大学美術館が開館してから5周年を迎えた年であった。記念企画として、“特美”の初代教員たちの作品を紹介する「“特美”の芽吹き—初代教員たちの逸品展」、開館以来収集した作品のうち人物と風景画を中心に紹介した「佐賀大学美術の実り展」を開催した。また、明治維新から150年の節目の年でもあり、記念行事として佐賀県主催で開催された肥前さが幕末維新博覧会に関連した企画として、佐賀大学地域学歴史文化研究センターとの共催による「幕末の佐賀と学問」、佐賀市教育委員会及び本学の理工学部名誉教授の協力による「見えた!?!三重津海軍所佐賀藩海軍特注磁器の謎」、芸術地域デザイン学部教員が制作し佐賀城本丸歴史館前に建立された鍋島直正像の原型を展示した「佐賀藩10代藩主鍋島直正展」を開催したほか、芸術地域デザイン学部主催による夜間展示「たまゆいの光(佐賀維新まつり「灯りの空間演出」)再演」が行われた。これらに学内外からの企画事業等を併せると32本の事業が行われた。全32事業の内、主催事業が7本、学内外から企画申請を受けての事業が25本であった。加えて、佐賀大学広報室後援「きてみんなしゃい!佐賀大学」事業として七夕・クリスマスにちなんだワークショップを開催し、本学クリエイティブ・ラーニングセンターの協力により、来館者が作成した作品を美術館ガラス面に投影する夜間プロジェクションマッピングを開催した。

展示やイベント以外では、前年度から開始した旧教員など関係者の作品収集、資料の保存管理、博物館実習生の受け入れ、県内外からの見学や視察及びメディアへの対応、寄附

金の収受などを行った。

以上の取組により、平成 30 年度は年間で 31,883 人の入館者を迎えることができた。昨年度より数値は下げたが、依然として他の大学附属博物館・美術館と比較して多数の来館者数を維持している。これは、休館日設定を月曜のみとしていることと、学外を含む企画申請事業を多く開催していることによる。開館からの総入館者数は年度末時点で 210,987 人となった。

企画申請事業を主催する学外の団体に対しての使用料は、平成 30 年度は 12 件、634 千円となった。昨年度から件数は 3 件増加し、収入額は 70 千円ほど増加、学内者利用数も 13 件で 3 件増加し、光熱水料相当額の振替額は 206 千円と前年度から 34 千円増加した。その結果、総額は 840 千円となり、前年度の 736 千円から 104 千円増加し、今後も美術館の安定した収入源として期待される。

(1) 美術館主催事業

「大学の紹介・広報・研究成果の発表」「大学の所蔵品の調査・公開」「〈特美〉から現在までの本学の美術・工芸に関連する人と作品」「地域の文化伝統の解題・アーカイブ」「総合大学の美術館としての特色を生かした展示」等に焦点をあてる。

- ① 「『特美』の芽吹き—初代教員たちの逸品」及び「佐賀大学美術の実り」は、開館 5 年目を迎えた記念展として開催。開館以来、当館が収集してきた作品の中から、本学で美術を教えた“特美”初代教員の作品を中心に展示し、併せて過去に主催した展覧会も紹介し、これまでの佐賀大学美術館の歩みを振り返った。
- ② 「新収蔵品展 —平成 29 年度寄贈作品による」は、平成 29 年度に当館に寄贈を受けた作品を紹介する展覧会であり、大正から昭和にかけて旧制佐賀中学で教鞭をとり教養教育にも尽力した田中宗一の水彩画、本学の金属工芸教室元教授で西欧の鑄造法を学び、彫刻界や鑄造界に大きな影響を与えた中牟田佳彰の鑄銅花器、23 年間染色教室で創作と教育に携わり、現在も精力的に制作活動を続ける田中嘉生の屏風、3 名の作品を紹介した。
- ③ 「幕末の佐賀と学問—明治維新への道」は、明治維新 150 年に併せ、幕末・明治期に佐賀とその周辺で活躍した志士たちが残した文物を紹介する展覧会。朱子学を修めた古賀精里や古賀侗庵、佐賀と日本の近代化に努めた副島種臣や大木喬任らの書や詩歌、典籍など、市場直次郎コレクションを中心に、佐賀大学が所蔵する貴重資料を展示した。会期中、関連事業として講演会とワークショップを開催した。
- ④ 「見えた!?! 三重津海軍所 佐賀藩海軍特注磁器の謎」は、「明治日本の産業革命遺産」として世界遺産に登録された三重津海軍所跡から出土した、「灘越蝶文」や「海」銘など、特徴的な文様が施された佐賀藩特注磁器食器を展示するとともに、その生産地の謎を解き明かすべく佐賀県立九州シンクロトン光研究センターの先端技術を用いて科学的見地から分析した成果を研究者の考察とともに紹介し、会期中は専門家による講演会及びギャラリートークを開催した。
- ⑤ 「美工 0G 展 —平成に咲く四輪」は、佐賀大学文化教育学部美術・工芸課程の西洋画コースで学んだ 4 人の作家を取り上げた展覧会であり、作品 4 点と小品 4 点を併せて展示した。また、繊細な表現が特徴的な作品を鑑賞するためにオペラグラスの貸出しも行った。
- ⑥ 「佐賀藩 10 代藩主 鍋島直正展」は、2017 年 3 月に佐賀城公園北側に建立された鍋島直正像の高さ 4m を超える銅像原型とともにその制作過程を紹介し、併せて三重津海軍所や蒸気車など鍋島直正の業績、側近であった古川松根を中心に同時代に活躍した人物も紹介した。

(2) 企画申請事業

- ① 学内利用に関しては、本学の教職員全員にメールを配信し、教育研究の成果発表や授業の一環としての展示室利用について企画を受付けることを教職員にも公平に周知している。

平成30年度における学生による作品の展示としては、芸術地域デザイン学部学生有志が企画した展覧会「表現と空間と言葉」、芸術地域デザイン学部の1年生119名による「芸術表現基礎・地域デザイン基礎成果発表展」、芸術地域デザイン学部1期生である3年生を主体とした第60回総合展、文化教育学部及び地域デザイン研究科に所属する学生31名による「卒業制作・終了展」、佐賀大学文化教育学部国語科学生による「卒業書作展」、佐賀大学デジタル表現技術者養成プログラム受講生による「修了作品展」、佐賀大学大学院都市工学科専攻及び理工学部都市工学科学生による「修士制作・卒業制作展」が行われた。

教員と学生による展示としては、芸術地域デザイン学部西洋画専攻及び崇城大学芸術学部洋画コース(熊本県)の教員、学生、卒業生ら80名による合同企画「第3回 S-YOUGA展」、佐賀県主催「さが維新まつり」のフィナーレを再演した夜間展示「たまゆいの光」などが行われた。

また、芸術地域デザイン学部主催、クリエイティブ・ラーニングセンター共催でデジタルアートの最前線を紹介する「FRONTLINE2018」では、「医」と「芸」の2つの”術(ART)”を2Dや3Dのイラストレーション、VRやMRについて結ぶ試みに焦点をあて、デモ作品の上映、講演会、トークセッションが開催された。

- ② 学外からの企画申請の受付は、美術館ホームページ及びフェイスブックで周知した。主な学外者の事業としては、美術団体では二紀会「佐賀支部展」、国内最大規模の書道団体である毎日書道会による「毎日現代書巡回展」の70回記念展、九州を中心として活動する現代美術家の作品58点が展示された「九州コンテンポラリーアート2019 佐賀」などが開催された。前年度以前からの継続事業としては璞友会展、JA主催の小・中学生ポスター・書道コンクール展、学童美術展、高等学校美術教師・生徒作品展、高校書道教師作品展・高校臨書展があり、初等教育から中等教育、そして市民活動まで、地域の文化活動に発表の場所として定着しつつあることを示しているといえる。特に学童美術展は、6日間の会期で3,084人、一日平均514人を集め、昨年度に引き続き最も館内を賑わせた展覧会となった。

(3) 実習・研修事業

平成28年4月の芸術地域デザイン学部開設に伴い、地域デザインコースが設けられ、平成30年度は学芸員資格取得希望者1年生32人、2・3年生42人を受け入れ、監視実習が行われた。

(4) 刊行物の発行

平成30年度は美術館主催事業「佐賀藩10代藩主鍋島直正展」において図録を発刊したほか、平成29年度の事業活動をまとめた「平成29年度佐賀大学美術館年報/紀要」を発行した。

(5) 掲載紙・テレビ取材等

当館で開催される事業の広報については、当館ホームページやフェイスブックなどで逐次情報を提供することで費用のかからない広報宣伝と事業の報告に努めている。平成30年度にメディアでの掲載・放映は、新聞等84件、テレビ・ラジオ15件取り上げられた。夜間展示「たまゆいの光」及び「佐賀藩10代藩主鍋島直正展」については、地元民放テレビ局の情報番組内で生中継が行われ、多くの来館者を集めることにつながった。

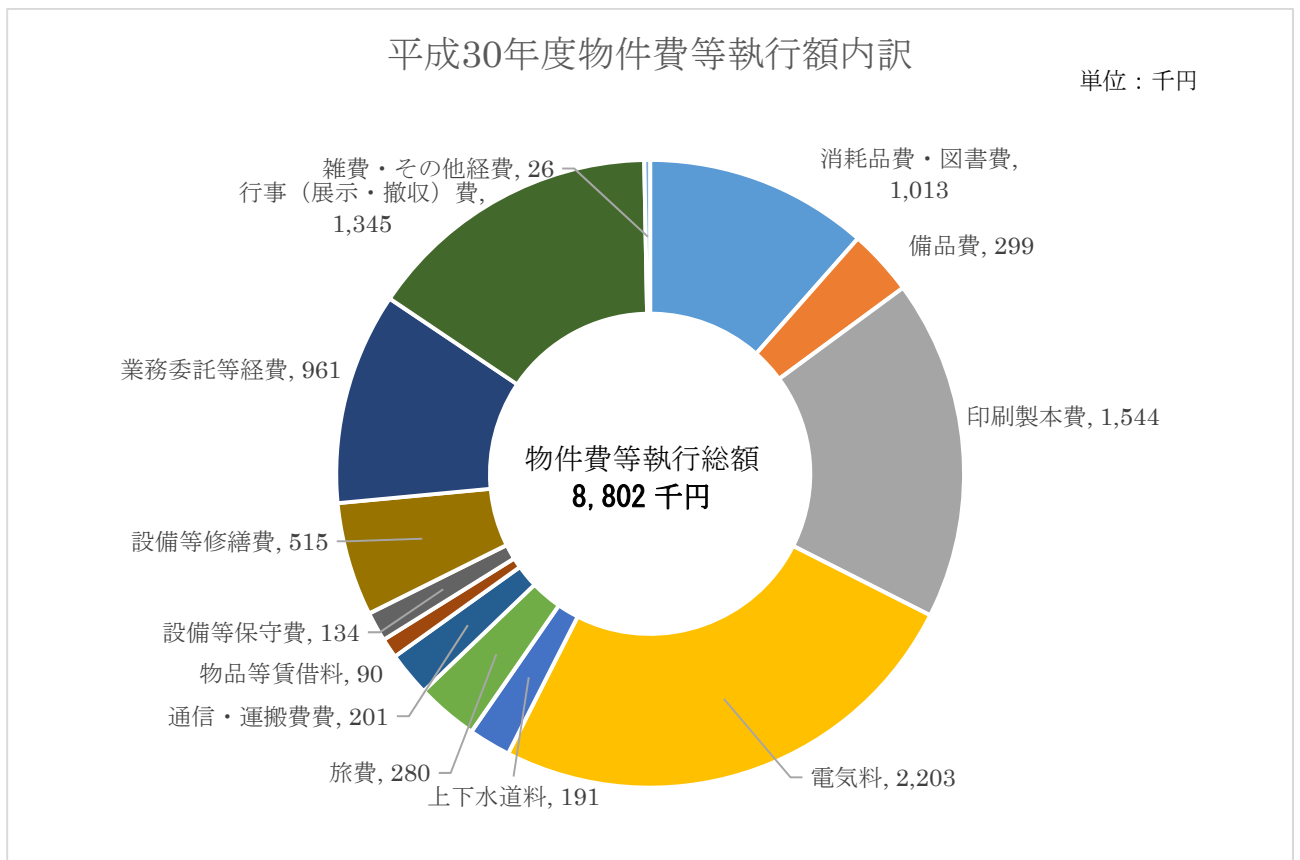
また例年通り、見学団体・視察等を随時受け入れた。大学見学のための高校生や父兄の団体見学が多いが、授業の一部として美術館見学を組み込むケースも増えてきている。解説・案内等の依頼に対しては、現行の職員体制で可能な限り応じた。

(6) 資料収集・保存

平成26年度より寄贈作品の受け入れを開始し、今年度は寄贈者の申し出により、作品調査を行い収集した。佐口正章のデザイン2点、石本秀雄の風景画1点、計3点の寄贈を受けた。

(7) 運営費の執行状況

平成29年度に美術館運営のために執行した経費の額は、非常勤職員（学生等アルバイト等を含む。）人件費等8,212千円、物件費等8,802千円（内訳は以下のとおり）、計17,014千円であった。



2. 今後の課題等

大学美術館としての理念に基づく展示企画、作品収集・保存の状況、館運営などのバランスの中で年間スケジュールを構成してきた。開館から5年が過ぎ、大学及び学

生、そして地域社会に資するような活動について少しずつ積み重ねられている実感がある。一方で、今後も継続的に美術館を運営するためには、常に課題の所在を念頭に置きつつ多方面と問題を共有し、助言・協力を仰ぎつつ、実現できるところから順次取り組みを進めていく必要がある。

(1) 美術館の運営費等

開館以来、美術館の運営費の継続的な確保は最大の課題となっている。寄附募集は継続しているが、寄附件数・金額とも減少しており、大幅な改善は見込めず、法人からの予算措置により運営している。

このような状況の下、安定した運営費の確保に資するため、平成26年度以降、施設使用者に対して光熱水費の実費を、さらに平成27年度からは学外者については展示室使用料を徴収している。平成30年度におけるこれらの収入は84万円ほどとなり、平成29年度の年間約73万円から約10万円増加しており、ここ3年間は安定した収入となっている。(表1)

また、平成28年度以降、主催展事業費確保のため、独立行政法人日本芸術文化振興会の芸術文化振興基金助成金の地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)に要望書を提出し助成金を獲得している。(表2)

自己収入策の検討、継続しての寄附獲得の努力、特に地域の企業等からの協力、外部資金の獲得などについての課題は、美術館単体では解消が難しい。寄附金の獲得増加策については、平成29年3月に法人としての方針が決定され、法人全体で取り組んでいるところである。

今後も引き続き大学美術館として、地域や社会の理解を深める事業を行い、大学美術館の活動に理解を得るよう努めていきたい。

(表1) 美術館貸付料収入等の推移(平成26年度～平成30年度)

単位：円

	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
現金等収入			13	349,252	10	401,800	9	564,000	12	634,000
学内予算振替	8	515,601	8	137,385	10	256,999	10	172,119	13	206,171
計	8	515,601	21	486,637	20	658,799	19	736,119	25	840,171
前年度差引増減(△)額		-		△28,964		172,162		77,320		104,052

(表2) 助成金収入等の推移(平成28年度～平成30年度)

単位：円

	平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
芸術文化振興基金助成金	1	1,353,000	1	1,130,000	1	858,000

(2) 美術館活動

平成29年10月からは正規事務職員1人、非常勤職員(学芸員)3人、再雇用職員1人という体制で活動しており、課題としている美術館の役割である調査研究を進める力が不足していることは解消できていない。

現時点で可能な対応策として、事務職員と学芸員の業務分担の見直しを行い、学芸員がより学芸業務に注力できる体制への移行を進めているところである。今後も

限られた人員の中で効果的に美術館としての活動が行えるよう検討を進めたい。

(3) 施設とセキュリティの課題

平成 30 年度においては、大雨や猛暑の影響もあり、温室温湿度管理が特に難しかったが、可能な限りその変化の確認を行い、設定温度の調節に気を配り、良好な状態を保ち続けるよう取り組んだ。今後も可能な限り、温湿度の把握に努め、良好な状態が維持できるよう取り組んでいく必要がある。

(4) 他の組織等との連携・協力

美術館主催事業では、明治維新 150 年関連の企画として、公益財団法人鍋島報効会徴古館，佐賀県立陶磁文化館，佐賀県立佐賀城本丸歴史館，佐賀市教育委員会，芸術地域デザイン学部による協力，地域学歴史文化研究センターとの共催で展覧会を行った。また，学業成果の発表の場としても定着してきており，今年度も芸術地域デザイン学部，文化教育学部の学生による作品展，理系学部の展示としては，理工学部都市工学科及び大学院工学系研究科都市工学の卒業制作・修士制作展が開催された。このように学内外の美術関係者や博物館・美術館との協力関係，信頼関係は良好である。今後も継続して良好な関係を維持できるよう努めていく。

佐賀大学美術館自己点検・評価報告書（平成30年度）に対する意見等

項目	評価	意見・理由等
1. 平成30年度における佐賀大学美術館の活動状況について		
① 大学教育研究への支援, 情報発信等	<input type="checkbox"/> 十分な取組が認められる <input checked="" type="checkbox"/> 取組が認められる <input type="checkbox"/> 取組が不十分	他大学との交流展を開催する等学生達の研究への支援になっていると思われる。自分達の作品を発表する場があることで学生達にとっては, 最良の発信場になっている。
② 社会貢献・地域振興	<input checked="" type="checkbox"/> 十分な取組が認められる <input type="checkbox"/> 取組が認められる <input type="checkbox"/> 取組が不十分	県内の小・中・高生の作品展などの開催によって, 一般の入場者数が増加しており, 地域との関係も深まってきている。
③ 芸術振興活動	<input type="checkbox"/> 十分な取組が認められる <input checked="" type="checkbox"/> 取組が認められる <input type="checkbox"/> 取組が不十分	常設展では, もう少し充実した展示内容を望む。又, 地域の市町村と連携した展覧会の開催にもっと取り組んでほしい。
2. 平成30年度における佐賀大学美術館の組織・運営状況について		
組織・運営	<input type="checkbox"/> 改善点はない <input checked="" type="checkbox"/> 一部改善を要する <input type="checkbox"/> 改善すべき点が多い 数ある	学芸員が非常勤では, 充実した展覧会の計画は難かしいのではと心配される。展覧会の看板や表示にもう少し工夫がほしい。
3. 佐賀大学美術館自己点検・評価報告書（平成30年度）について		
評価内容・課題の把握等	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 一部疑問がある <input type="checkbox"/> 妥当とはいええない	美術館運営に芸術地域デザイン学部以外の協力がもっと望まれる。美術館展示方法, 展示室の使い方など工夫がほしい。

令和 2年 1月30日

検証者氏名 金子 剛

佐賀大学美術館自己点検・評価報告書（平成30年度）に対する意見等

項目	評価	意見・理由等
1. 平成30年度における佐賀大学美術館の活動状況について		
① 大学教育研究への支援、情報発信等	<input type="checkbox"/> 十分な取組が認められる <input checked="" type="checkbox"/> 取組が認められる <input type="checkbox"/> 取組が不十分	学生，教員の研究の発表の場となっている。
		学生の元気よさが表に見えるような雰囲気，発表を期待したい。
② 社会貢献・地域振興	<input type="checkbox"/> 十分な取組が認められる <input checked="" type="checkbox"/> 取組が認められる <input type="checkbox"/> 取組が不十分	良い展覧会が行われているということが，すなわち
		社会・地域とのつながりだと思ふ。
		地道な努力にかかっている。
③ 芸術振興活動	<input checked="" type="checkbox"/> 十分な取組が認められる <input type="checkbox"/> 取組が認められる <input type="checkbox"/> 取組が不十分	年間を通して質の高い展覧会が多い。
		学生たちには幅広く刺激になっているのではない
		か。
2. 平成30年度における佐賀大学美術館の組織・運営状況について		
組織・運営	<input type="checkbox"/> 改善点はない <input type="checkbox"/> 一部改善を要する <input checked="" type="checkbox"/> 改善すべき点が多いある	佐賀大学美術館で専任の学芸員がないというのが理解しがたい。
		予算・運営費がかかることではあるが，じっくりと
		いい企画展を実施するためにも改善を期待したい。
3. 佐賀大学美術館自己点検・評価報告書（平成30年度）について		
評価内容・課題の把握等	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 一部疑問がある <input type="checkbox"/> 妥当とはいえない	客観的な分析だと思ふ。
		美術館の「顔」は館長であり，学芸員だと思ふ。
		箱だけではなく，「顔」を持った美術館も必要では。

令和 2年 2月 6日

検証者氏名 服 部 大次郎

佐賀大学美術館自己点検・評価報告書（平成30年度）に対する意見等

項目	評価	意見・理由等
1. 平成30年度における佐賀大学美術館の活動状況について		
① 大学教育研究への支援、情報発信等	<input type="checkbox"/> 十分な取組が認められる <input checked="" type="checkbox"/> 取組が認められる <input type="checkbox"/> 取組が不十分	<p>開館5周年という節目に当たり、充実した企画が多くあったような気がします。立地条件との兼ね合いもあり情報がどこまで届いているのかはわかりませんが、新聞やテレビでの扱いは影響が大きいと思います。</p>
② 社会貢献・地域振興	<input type="checkbox"/> 十分な取組が認められる <input checked="" type="checkbox"/> 取組が認められる <input type="checkbox"/> 取組が不十分	<p>教育機関である大学と幼・小・中・高・特別支援学校等や子どもたちとのつながりが最も大きな役割だと考えます。展示のみならず、ワークショップや大学生と子どもたちの共同制作等の取組を期待します。さらに学生が地域の学校等に出向くような実践に繋がるようなことも可能ではないでしょうか。</p>
③ 芸術振興活動	<input type="checkbox"/> 十分な取組が認められる <input checked="" type="checkbox"/> 取組が認められる <input type="checkbox"/> 取組が不十分	<p>展示発表されている作品の大半は質的にも量的にも一定の評価を得ていると思います。さらにアートが日常生活に生かされたり、商品化されたり…暮らしに繋がるようなことになれば、学生の将来や子どもたちの未来に繋がるのではないのでしょうか。</p>
2. 平成30年度における佐賀大学美術館の組織・運営状況について		
組織・運営	<input type="checkbox"/> 改善点はない <input checked="" type="checkbox"/> 一部改善を要する <input type="checkbox"/> 改善すべき点が多い 数ある	<p>財政的な課題なのか、システム上の問題なのかはわかりませんが、常勤の学芸員が不在という事実には驚いています。大きな企画や深い研究のためには、最低でも5年程度のスパンを必要とします。人材と経費は現実的な大きな課題と認識しています。</p>
3. 佐賀大学美術館自己点検・評価報告書（平成30年度）について		
評価内容・課題の把握等	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 一部疑問がある <input type="checkbox"/> 妥当とはいえない	<p>事業報告書は良くまとめられており、初めて拝見する私にも取組の様子や課題がわかりやすかったです。日々大変な作業をされていると思いますが、このような積み重ねを大切にしてください。</p>

令和 2年 2月24日

検証者氏名 平江 潔